

平成29年6月12日(2)

開議 10時00分

**○議長 磯永優二君**

皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は13名であります。

それでは、これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問1日目を行います。

順次、質問を許可します。

はじめに、平成豊明会の一般質問を行います。

最初に、内丸伸一議員。

**○2番 内丸伸一君**

皆さん、おはようございます。新平成豊明会、一番手、4月から豊明会でお世話になるようになりました、内丸です。市政実行、真心込めて質問いたしますので、誠実なる回答をお願いいたします。

まず、1点目ですが、環境関連施設について。まず、八屋地区は環境関連施設を3施設抱えております。その内、2つの施設が私の居住地区にあります。地元議員として環境関連施設、し尿処理場について質問いたします。

昨年、6月から7月にかけて海上保安庁に査察に入られました。約1年経ちましたが、現在の状況をお聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

現在、築上町が昨年度末、3月31日をもって脱退しております。日量が110k1ありましたが、17k1、築上町分が減って、93k1ということで運営をしております。

水質の状態なんですけれども、海上保安庁のほうに改善案として提出した一つになるんですけれども、槽へ送る空気の量を自動調整するという機械を追加で改修工事を行いました。それによって現在安定した水質を保っていると報告を受けております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

先ほど設備の改善等を行ったということですが、設備の運転状況、維持管理の現状、報告等、どういうふうになっていますか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

ポンプとかその他機器がございますけれども、定期的に補修を行っている状況のようです。それから急に言っても予備品がなければ改修工事ができないということで、予備品も揃えているということで聞いております。

それから、管理委託を受けております業者さん等、打ち合わせがちゃんと必要だということで、この辺も海上保安庁のほうから指摘を受けましたので、その辺を密にやるということで運営をきちっとやることを確認しております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

組合議会で基本設計の予算が通り、基本的な計画が出来上がっていると思いますが、地元6区や漁協、吉富・上毛両町との話し合いの現在の状況、今後の予定等はどういうふうになっていますか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

3月22日に地元6区と協議を行わせていただきました。その中で下水投入方式について進めるのであれば、安心・安全で経費の掛からない施設の計画を立て、吉富・上毛町の加入については、積極的に交渉に臨むよう、御意見をいただいているところでございます。

それを受けまして、4月14日に市長と私で吉富町・上毛町に出向いてきました。町長と面会しまして、下水投入方式による両町の加入の検討をお願いしたい、ということでお願いし、まずは担当課長による打ち合わせを行うことが決定しております。

第1回目の担当課長会議ということで、5月22日に広域環境施設組合の事務所を借りまして、施設の建設費、それから運営費について説明を行っております。その中で、経費削減のための改善案とか、市町の負担割合について、今後も話し合っていきたいと思います、ということで1回目は終わっております。

また地元協議会と、それから漁協とも、これを受けて、またお話をさせていただかないといけないと思っておりますので、議会終了後に早い時期に日程を整えたいと考えているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

長寿命化計画を断念し、下水道投入方式にということで、先月6区協議会のメンバーと関係課の職員、そして地元議員とで下水道投入方式を採用している施設、3件視察してま

いりました。またそれに先立ち、議会運営委員会でも同様の施設を視察しております。

そのときのことを踏まえて、現在の時点では下水道投入方式で話を進めていく、という認識でよろしいでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

私も地元6区の協議会の皆さんと、3箇所のほうを見させていただいております。その中で、下水投入方式は中々いい部分もあるなど感じておまして、今のところ下水投入方式で検討していきたいと考えているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

下水道投入方式では、汲み取りしてきたし尿を何倍かの水で希釈し、下水道に流し込むようになると思いますが、そのときの水は何を使用し、何倍希釈する予定でしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

環境施設組合の設計で示されたものについては、現在、し尿1に対して16倍の水で薄める方式ということなので17倍希釈になろうかと思っております。

なお、水については、研修先でも雨水を溜めて使うとか、いろんな方法もありましたけれども、伊良原ダムの受水が開始になれば、その水を使ったほうがいいのかと検討しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

希釈水に上水道を使用するようになるということですけど、上水道使用料金、下水道使用料金が経費の大きな割合を占めると思いますが、経費削減のために、希釈に使用する水道水の削減は検討したほうが良いと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

下水投入方式による経費の大きなものとして、議員さんが言われたように、水道の使用料、それから下水の使用料があげられます。その中でも水道の使用料が抑えられれば下水の使用料も抑えられる、ということが分かっておりますので、今後、豊前市の企業立地が

進んで工業用水が必要になることがあろうかと思っておりますので、その場合、希釈水削減のための追加施設等を検討していきたいと考えているところでございますが、まずは伊良原ダムからの受水が開始されますと、1日2700tくらいが余分にやってくると聞いております。この水を現時点では希釈水として使用するのが一番の有効利用法ではないかと、今は考えております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

やはり水不足、先ほど言いましたように工業立地が進めば、水を使うことも多くなります。そしてやはり天候等によって水不足が発生することが予想されます。いま計画している段階では17倍希釈ということですが、やはりその17倍希釈を少しでも減らす、そういった方策を、やはり早めにとるべきだと思っております。

事前に工事自体は、前処理施設と言いますか、そういったのが用意できなければ、いずれは建増しする等を検討して、事前にその施設が後で追加できるように、計画を立てておいたほうがいいと思っておりますけど、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生活環境課長、答弁。

**○生活環境課長 清原光君**

議員さん言われましたように、企業立地によって工業用水が不足するとか、それとか雨が降らないとか、いろいろ水不足の可能性もあろうかと思っております。今後のことも考えて、追加施設の用地を確保するとともに、配管等が雑にならないように、その辺のトータルな計画もコンサル等に聞いて、考えていきたいなと思っております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

私が議員になって1年、毎回この件については質問させていただいております。そのときに市長に施設を1回見に行ってください、と言ってまいりましたが、市長、見に行っただけでしたでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

環境施設組合の施設のことでございますか。

(内丸議員「はい」の声あり)

中奥深くまで全部ということではありませんが、施設組合の中で説明をしっかり受けたと

記憶しております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

私も先日、初めて見学をさせていただきました。そのときの印象として、施設の老朽化に伴い、設備もガタがきて、いつ止まってもおかしくない状態と聞いておりましたが、施設内、そして設備もきれいに整備されておりました。それは設備が止まれば、利用している人々に迷惑が掛かるといったことがないように、職員の方が力を合わせて努力している賜物だと感心させられました。

そういった人たちのため、施設を利用している人々のため、この問題は早期解決をしなければならぬと思っております。そのためには、私、また議員の皆さんも協力は惜しまないと思いますので、市長も気合いを入れて早期解決に努力していただきたいと思っております。そのことに関して、市長の考えをお願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

生活インフラの基本になる一つの施設でございます。豊前市の中でも重要な役割を果たしておりますし、いま御指摘、お話がありましたように、現場の職員はしっかりと日々頑張っているところでございますし、協力していただいている企業の皆さんも使命感を持ってやっていると聞いています。彼らが安心して、しっかり仕事ができるように態勢を整えるのが我々の仕事でございます。

そういう意味では、我々が一体となって市民の生活インフラ、安定的に運営していくというのは重要なことでございますが、この総合的などと言いますか、長期的にみると、やはりもう切り替えの時期に来ているということで、公共下水道への投入という流れを、議会の皆さんに協力、地域の御理解、漁協など関係団体の御理解、御協力をいただきながら、早く進めていきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

ぜひ、よろしくお願いします。

続きまして、文化施設について質問いたします。何年も前から懸案事項であり、昨年9月議会で私も質問しました。また12月議会では尾澤議員も質問しました文化施設の件ですが、現在の状況はどういうふうになっているのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

おはようございます。お答えいたします。平成27年度に豊前市総合文化施設建設市民会議を開催いたしまして、その中で建替えの必要性及び候補地について御議論いただいて、答申をいただいたところであります。

その後、庁内の組織であります総合文化施設建設検討委員会で議論を開始し、今後の取組みについて協議を行っているところでございます。ただ、現時点では、財源について、なお検討が必要であるというところから、その後、具体的な取組みには至っていないのが現状でございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

文化施設については、一般質問において議員からの提案もあり、執行部からも単独施設ではなく複合施設でいきたい、とのことでした。

先月、文化施設建設に少しでも役立てればということで、複合施設を視察してまいりました。その施設は、豊前市が造ろうとしている施設とはちょっと違っていました。複合施設としては大いに参考になるものと思っております。

詳しい概要は省略いたしますが、商業施設や赤ちゃんからお年寄りまでが利用できる施設になっているということ。特に乳幼児や子育て世代には大変便利な、子ども家庭支援センター、病児病後児保育室を併設した認証保育所、小児科等診療所というワンストップサービスの施設が併設されております。

豊前市では、病後児保育をしている保育所が1箇所、病児保育に至っては、している所が全くないということですが、文化施設建設の折には、ぜひともこのような施設を併設していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

現在、各地でいろんな文化施設の整備が進んでおりまして、そうした事例を見てみますと、議員おっしゃいますように、単独ではなくて商業施設等を含めて複合施設というような事例が多く見受けられます。中には福祉関係、また健康関係の施設の併設というような所もあるようでございます。

いま議員御提案いただきました内容につきましては、今後、豊前市が子育て世代にやさしいまちづくり等を進めていく上で、十分検討をすべき項目であろうと考えておりますので、今後、具体的な文化施設の内容等の検討の際には、ぜひ参考にさせていただきたいと

思います。よろしくお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

建設費用につきましても、とても高額になるため様々な方策を考えていく、とのことでしたが、現時点ではどのようなことをお考えでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

現時点で考え得る内容といたしましては、都市計画等の中で活用できるような助成金がありますとか、また、いま地方創生の中で話題が出ております企業版ふるさと納税でありますとか、またPFIの手法につきましては、昨年4月に総務省の支援事業で研修等を行ったところがございます。そうした活用出来得る内容につきまして、今後とも検討してまいりたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

豊前市にはカラオケ、そして日本舞踊、オーケストラを呼んでコーラスを行う団体や近隣にはない、すばらしいバレエ団、そして国指定民族文化財の神楽講等、たくさんあります。文化的にも魅力ある豊前市を発信していくためにも、1年でも早く文化施設の建設を進めていってほしいと思いますが、決意をよろしくお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

総合的な文化施設についての御質問でございます。私も市長拝命以来、大きなテーマとして、また市民ニーズの高い課題の一つとして文化施設の更新と言いますか、施設の新しい姿というのが課題として受け止めております。

そういう中で、いま御指摘いただきましたように、地元豊前には、他に誇る伝統的な文化、そして新しい文化、そしてグローバルな面を持った文化活動というのが盛んでございます。こうした皆さんの発表の場、そしてまた練習の場としても使えるような施設というのは、多くの方々から望まれております。ただ、それをどうするかたちでどのように造っていくのか。お金が掛かる問題でございます。財政的に非常に厳しい中で、取組んでいかなければならないという、私たちにとっては忸怩たるところがございます。

しかし知恵を使って、いま教育委員会でございますが、担当課長のほうから申し上げま

したように、国の施策、もしくはPFI、そういう知恵を使いながら、また御指摘いただきましたように、いろんな施設を複合して造る、その費用を分担できるかもしれない、そんな可能性も含めて探っていかなければと思っております。

いずれにしても、市民のニーズの高い施設でございますので、努力をして実現できるように頑張っていきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

市民の皆さんが早く建設していただきたいと望んでいることですので、ぜひともよろしくお願いします。

続きまして、防災についてお伺いします。九州地方も今月6日に梅雨入りいたしました。梅雨の終盤には大雨も予想されます。豊前市では大雨・台風に対し、どのような対策を行っていますか。また大雨・台風時にはどのような対策をとるようにしておりますか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

おはようございます。それでは台風・大雨時の普段の対策について、お答えいたします。

豊前市では、大雨・台風に直結する河川浸水想定区域、土砂災害警戒区域、高潮警戒区域など、地域指定を受けている地区が多数ございます。普段の対策といたしましては、自助・共助・公助を柱に、毎年2校区を対象に総合防災訓練を実施しております。その過程で、集落座談会やワークショップの開催による防災・減災への啓発活動、自主防災組織の設立や育成強化、さらに市民参加による防災訓練の実施等に日々取り組んでいるところでございます。

また市民の皆様には、昨年度最新の情報を掲載した豊前市防災マップと、自然災害に備えて日ごろから取り組むことなどの情報をまとめた冊子を全戸配布するとともに、市報やホームページを通じて取水期前の備え、防災訓練の様子などの意識向上に努めているところでございます。

これからの季節になりますが、市では土のう約2千個の準備、各消防団においても一定の準備をお願いしております。また若手職員45名による緊急時特別出動班を編制し、災害現場での出動や避難所開設時には職員が入って行くよう準備をしているところでございます。

大雨・台風時の呼び掛けでございますが、総務課においては大雨・台風時には大雨警報発令から解除になるまで、夜間・休日は関係職員が交代で待機し、雨量、進路等の状況を確認しながら、状況に応じて、自宅待機に当たる職員や緊急時特別班が出動できる体制を



とっております。

実際の住民への広報につきましては、防災行政無線や豊前消防団による広報活動を軸に、災害の状況に応じて携帯3社から発信する緊急エリアメール、さらに区長さんへの連絡等、そういう体制をとっておるところでございます。

今後も市民の安心・安全なまちづくりの実現に向けて、防災・減災対策に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

建設課のほうの取り組みといたしましては、台風・大雨時のため池、河川などの防災対応につきましては、事前に主要なため池や河川取水口、用水路などの点検やパトロールを行い、必要であれば河川取水口を閉めたり、用水路の堰上げ板の撤去を行っております。

梅雨時期前には、市報を通じて、ため池、井堰などの管理者の皆様へ事前に行う点検を掲載し、適切に維持管理していただくようお願いしております。

また浸水被害を未然に防止するため、主要なため池の管理者の方々に、ため池の水位を下げてくださいようお願いや、必要に応じて取水口の草木や土砂などの撤去を行っております。

今後とも市民の生命や財産を災害から守り、被害の軽減に努めてまいりたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

大雨のときに、無理して外に出て水路に落ちて流され、死亡する事故をよく耳にします。そういった事故をなくすためにも、市報やホームページ、SNS等を通じて、大雨・台風時には無理な外出を避け、事故に遭わないよう注意を呼び掛けてはいかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。避難には事前の自主避難を積極的に現在進めているところですが、間に合わない場合については、自宅において垂直避難、または土砂災害からは離れた方向に避難する、そういう避難のかたちが様々ございますので、そういうものも議員さんのほうから提案がありましたように、市報、ホームページ等を通じて積極的に広報していきたいと考えております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

市報やホームページ、これは先ほども最初の答えのところで、課長のほうからありましたけど、SNS、市長はじめ副市長、皆さん、たくさんの人とフェイスブック等につながっていると思います。

そこでやっぱり市に何かあったときには、こうですよと、市長・副市長、率先してぜひ情報を発信していただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

いま御紹介いただきましたように、私たち、SNS、その一つの分野でありますフェイスブックを使わせていただいております。非常に反応が早くて広範ないろんな人に意思を伝えることができる、そういう意味では非常に優れたツールだと認識しております。

こういうものも活用しながら、こちらから情報を発信する、さらにできれば、市民の皆さんが気付いた、ここは危ないよとか、ここはこういうことになっているよ、というのを市のほうにフェイスブックなどで伝えていただけるようなことも、将来的には考えていかなければならないんじゃないか。

現場の姿が、画像、映像入りで市のど真ん中に伝わってくる、それに対していち早く市が手を尽くすことができる、差し伸べることができる、そういった今のICTの社会でございます。安全・安心の社会づくりのためにも、そういう活用をしていかなければならない時代が来ているというのを、今の質問でしっかり認識させていただいておりますので、庁内でしっかり勉強していきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

先ほど建設課長からもありましたけど、河川やため池などの水利権責任者には事前に水害等、発生しないよう対策をとるよう通知を出しているとのことですが、その通知に一言、危ないときには無理をしないようにというふうな感じのことを、一言書いていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

内丸議員のおっしゃるとおりでございます。今後、施設管理者の方々に注意喚起を行っていきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

責任感の強い方が、大雨時に心配になり、無理をして点検に出かけ、事故に遭うことのないよう、よろしくお願いいたします。

次に、防災士について、お伺いたします。豊前市では、防災、または災害時に率先して知識・経験を生かし、活動してもらうために防災士の資格取得を推進していますが、今後も継続していくのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。豊前市では平成25年度に補助金制度を創設し、一般募集により、これまで18名の方を養成してまいりました。また市内の一般企業、個人により資格取得をされた方を合わせますと、現在50名が防災士免許を取得されております。

今後も免許取得の支援を行いながら、地域防災のリーダーとなる防災士の確保と連携強化に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

いま現在では、防災士取得者がどのようなことをするのか、豊前市とどう関わっていくのか、はっきりしておりませんが、今後はどのようにするつもりでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。昨年からは市内の防災士の皆様にお集りをいただき、意見交換等を実施しております。その結果、本年7月をめどに仮称ではありますが、豊前市防災士会として組織化する準備を進めているところでございます。

御質問いただきました活動内容等につきましては、今後防災士会と協議を行いながら、豊前市に合った防災活動を進めていく予定でございます。

その方向性としたしましては、豊前市防災士会はもとより、地域防災を担う自主防災組織や消防団と連携を図り、行政主体から地域協働の防災活動ができる体制づくりに向けた取組みを実施、支援していきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

現時点で豊前市の校區別に分けると、地区によっては防災士が多い所、少ない所と差が開いておりますが、防災士の少ない所を重点的に、資格取得を推進していったほうが良いでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。いま議員さんが指摘のように、校區別に防災士の人数を比較いたしますと、格差が生じております。将来的には校区ごとに人口に見合った防災士の配置が望ましいというふうに考えております。

今後は地域より候補者を推薦していただくなど、募集方法や選定方法については、今後、防災士会等と協議しながら進めていきたい、というふうに考えております。よろしく願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

地震・雷・台風・大雨など、自然災害が少ない豊前市とは言え、いつ、なんどき、災害に見舞われるか分かりません。災害が発生したときに少しでも被害を抑えるため、必要以上の対策を取り、万全を期していただきたいと思います。

続きまして、豊前市の宝であります子どもたちの通学路に関して質問いたします。

以前からですが、毎朝の通学時、車がすれ違うときに子どもたちが通学している列の前に停車し、すれ違う光景をよく目にしております。道が狭く、互い違いに電柱が立っているのが原因の一因かと思われま。

東京都では、都道での電柱新設を原則禁止する条例を可決し、国も無電柱化推進法を施行しました。莫大な費用、時間が掛かるとは思いますが、子どもたちのため、子どもたちの命や未来を守るため、また防災面から、通学路の拡張、電柱の地下埋設化を検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

建設課長、答弁。

**○建設課長 木部幸一君**

電線の地中化につきましては、いま議員がおっしゃられたように、無電柱化により道路の有効幅員を広げることで、通行の安全性、快適性の確保、また景観、観光面においては、電柱、電線をなくすことによる良好な景観の形成、また防災面においては、災害時、電柱等が倒壊することによる道路の寸断を防止することなどが挙げられるということでありま

す。

しかしながら、電線の地中化に対しましては、電柱を使用する場合に比べて非常に高い整備費用が必要となること、約10倍から20倍のコストが掛かると言われております。災害や停電などの不測の事態が生じた場合、復旧に時間が掛かること、また市道などの既設埋設物が輻輳していること、電気・通信事業者の負担など、様々な課題がございまして、電線地中化の支障となっており、中々電線の地中化が進んでいないようです。当市におきましても、同様な状況でございます。

電柱などが狭小な市道の両サイドに立てられ、通行に支障が出ている地域については、できるだけ支障が出ないように、電柱などを民間の土地に立てさせていただくか、または片側に寄せて電柱を立てるなど、電力・通信事業者に電柱の整理をするよう、指導や要望を行っていく必要があるのではないかと考えております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

内丸議員。

**○2番 内丸伸一君**

子どもたちが通学するときに事故に遭わないよう、対策を早めに考えて、取っていただきたいと思います。

これで私の質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

**○議長 磯永優二君**

内丸伸一議員の質問が終わりました。

次に、平田精一議員。

**○6番 平田精一君**

改めまして、おはようございます。平成豊明会、二番手の平田でございます。よろしくお願いたします。質問については、大きく教育問題と人口減少について、質問させていただきます。

まず1点目の教育問題として、防犯対策、通学路の安全対策、さっき内丸議員も質問していましたが、通学路の安全対策について、お伺いたします。

まず1点目、昨今、子どもを巻き込む凶悪犯罪が続いております。豊前市においてもあってはならない凶悪犯罪が発生し、千葉県においても同様な犯罪が発生しました。またこの春には九州周防灘地域連絡協議会で連携をとっている宇佐市において、子ども園が暴漢に襲われ、保育士2名が負傷する事件が発生しました。

その後、宇佐市、中津市においては、防犯対策としてサスマタ等の配給や犯罪の講演を行っているようですが、豊前市において、どのような対策をとられているのですか、まずお伺いたします。

**○議長 磯永優二君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 田原行人君**

おはようございます。4月より学校教育課長になりました田原でございます。よろしくお願ひします。

平田議員の御質問にお答えします。防犯対策といたしましては、文部科学省から示されております学校危機管理マニュアル等を基にして、各学校の指導計画書の中に安全確保危機管理マニュアルを作成しております。その中に不審者の対策マニュアルを明記しておりまして、学校施設の防犯対策に関する基本的な方針や一般的な留意事項を取りまとめて、その内容を踏まえた様々な状況を想定した具体的な対応、効果的な運用について、詳細に示しているところでございます。

また先ほど議員さんの話にもありましたように、豊前市でもサスマタを全学校に常備しております。その他、市内の小学生に関しましては、入学時に防犯ブザーを全員に配布、中学校は女子のみですけれども、防犯ブザー等を配布しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

先に学校教育課から返答がありましたので、そっちからいきたいと思います。

小学校の事件の中で、記憶に新しいと思いますが、何十年か前に池田小学校の事件がありました。実際に豊前市の小学校を見てみると、非常に開放的なのはいいんです、誰でも入れるような学校になっています。そこで、宇島小学校には防犯カメラあたりを設置しました。他の学校にはまだ設置されていないと思います。

いま国の政策として防犯カメラに対してかなりの補助金が出ているのではないかと思いますので、学校に設置するつもりがあるのかないのか、お伺ひします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。28年度事業で宇島の駅前に2基、松江の駅前に1基、それと宇島小学校に1基、設置をしております。

今後につきましては、小・中学校全部に、最低その周辺の道路、校門の前の道路を含む範囲内で、防犯カメラを設置する計画にしております。県のほうから今2分の1の補助金がいただける状況でございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

3月議会でも黒江議員が質問したように、ドライブレコーダーの設置や防犯カメラの設置というのは、犯罪を抑止する上でも非常に大事なものだと思います。犯罪が起きたときに、よく防犯カメラの映像から犯人が割り出されることが多くあると思いますので、今後、増やしていただきたいなと思っています。

先ほどサスマタということがありましたけど、実際にサスマタでやると、たぶん女性だったら逆に奪い取られる可能性が大なんですね。サスマタというのは、こういうふうに広がっていますから、ポンと握られてクルッとやられたら終わりなんですよ、だからそういう使い方の講演会を実際にやるのか、やられているのか、お伺いします。保育園・幼稚園のほうも、ちょっとお伺いします。

**○議長 磯永優二君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 田原行人君**

お答えします。小学校においては防犯事業の一環ということで、サスマタを使つての訓練等を行っているということでございます。

**○議長 磯永優二君**

福祉課長、答弁。

**○福祉課長 則行修子君**

保育園の状況について、お答えします。公立の保育園につきましては、サスマタを2基配置しております。私立の保育所については、現在、調査中でありまして、まだ把握ができていない状況でございますが、安全対策の訓練としましては、月に2回実施をしております。

その中で火災とか地震とか水害とか、または不審者とかいろいろございますが、不審者の対応についてということにつきましては、今後、各保育所と協議をしてみたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

実際にいろんな対策方法があつて、サスマタだけでは中々難しいところもあるんですね。いまスプレー式のものもありますし、ボタンをポンと押したらネットがパッと出たりするものもあります。

防犯のために一番大事なのは、まず子どもをかくまうこと、逃がすことが大事ということらしいんです。宇佐市のときに警察官の方が言われたのが、絶対に戦わないでくれというのが基本。戦うと向こうはなお激しくなるということで、だからやっぱり警察官の方たちと話し合いながら講習会をするということが一番今後大事になってくるんじゃないかと

思います。

防犯、防犯と言って、滅多にないことではないかと言われるかもしれませんが、すぐ隣の市で起きていますし、防災対策と一緒にですね、いつ何事があるか分からないことは事実だと思いますので、その点、教育長、どう思いますか。

**○議長 磯永優二君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

平田議員の質問にお答えしますが、(資料提示あり)これがあなたの地元の学校の教育指導計画書です。学校教育は、もう全て学校で、その年間の指導計画書の中に沿ってやっております。その中で、安全確保、危機管理マニュアルというような項目があります。

そういうことで、議員の言われるように、不審者が侵入しないことを祈るばかりですが、最初にあなたが言われたように、豊前市の学校は開放的です。もっと言いますと、私たちが現役の時代から、正門にはちゃんと門扉を付けなさいと、不審者侵入というのは、放ったらかしておいたらやっぱり悪いらしいんですね。だからやはり塀をちゃんとつくって、閉門には門扉をして不審者が侵入しないようにしなければいけないということは、これは決められているわけですが、大変な予算が掛かるし、中々できないと。せめて鎖くらいということで、学校現場には指導しておりますけれども、そういう意味で非常に危機管理ということは、学校現場、気を付けていかなければいけないし、特に命ということが一番を考えて、この問題に対応していかなければならない。

そのためには、あなたが言われるような訓練ということも大変必要だと思うし、いま言ったように危機管理マニュアルを中心にして学校現場でしっかり指導していただくということしかないと思います。よろしくお願いします。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

私も、仕事柄、他県ですが、保育園などにお伺いしていますけど、結局、いま厳しいところは電子錠になっているわけですよ。ピンポンと鳴らして中からガチャッと開けてもらって、閉めたらまたガチャッと閉まるわけですね。それくらい厳しくやっている。段々厳しくなっています。やっぱり外国なんかはそれが普通だということになっているみたいなんです。日本がこういう犯罪大国になることは、絶対によくはないことなんですけど、徐々になりつつあるのかなと。

いろんな変な犯罪が増えつつありますので、やっぱり子どもたちの命を、そうした事件で亡くしたくないので、今後しっかりやっていただきたいなと思っています。

保育園・幼稚園の状況として、電子錠とか監視カメラの設置状況は、どんなふうですか。



**○議長 磯永優二君**

福祉課長、答弁。

**○福祉課長 則行修子君**

電子錠とかいったところにつきましては、1箇所、電子ロックの所は把握しております。その他の部分については、現在調査中でございますので、また分かり次第、御報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

監視カメラでございますが、公立の保育所につきましては、4箇所の監視カメラがございます。その他の部分についても、現在調査中になっておりますので、また後ほど御報告をさせていただきます。よろしく願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

こういう犯罪があってはならないことなんですけど、それとそれ以上に、さっき内丸議員が質問したように、通学路において交通事故に巻き込まれる事故というのが相当あるわけです。学校の通学路の安全・安心を守るために、こういった措置をやられていますか。

**○議長 磯永優二君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 田原行人君**

通学路の安全に関してですが、教育委員会では通学途中の児童生徒を交通事故や犯罪から守る取り組みを推進するためということで、国道・県道・市道等の管理者、それから警察、小・中学校の各代表で構成しております、豊前市通学路安全確保推進会議を設置しております。この安全確保推進会議とともに、平成28年3月ですが、通学路交通安全プログラムということと同時に作成しております。

簡単な流れを申し上げますと、28年・29年からの取組みではございますが、毎年大体6月に各市内の小・中学校から危険箇所を提出してもらいまして、その報告に基づいて、その会議の中で重点課題を設定し、8月にはポイントを定めて合同点検等を実施するという流れになっております。

合同点検の際には、それぞれの学校や保護者、道路管理者とか警察、地元の関係者等も参加して実施するというかたちで対応に取り組んでいるところでございます。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

しっかりやっていただきたいと思います。

それともう1点、他県を見ると、よく横断歩道が歩車分離方式になっているんですね。

歩行者と車を分離しているということで、豊前市で見たら三毛門小学校の旧国道線が歩車分離になっているみたいですけど、いま豊前市の中で一番子どもたちや高校生が多いのは、郵便局の前の交差点だと思いますが、そこを歩車分離方式にできないのか、ちょっとお伺いします。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

歩車分離式信号機について、お答えします。この信号機は、いま議員さんから御説明がございましたように、信号交差点において、青色信号で横断中の歩行者と車両との衝突事故を防止するため、歩行者と車両の通行を時間的に分離して、歩行者の安全に配慮した信号機というふうに言われています。

メリットといたしましては、道路法通り正しく横断歩道を渡る歩行者・自転車の安全が自動車により阻害されず、事故を大きく減らすことができる。また右左折車両がスムーズに通行できる。歩行者を気にせず自動車が右左折できることがあります。

またデメリットといたしましては、歩行者用信号だけが青信号となる時間のため、車両の待ち時間が増加し、渋滞が発生する、などがございます。また歩行者は青になるまでの時間があるため、信号を無視するというこも、また発生すると言われております。

いずれにいたしましても、信号機の見直しにつきましては、豊前警察署が調査の上、決定いたしますので、地元区長さんや青豊高校等から要望書を添え、豊前警察署へ提出する必要があります。議員からの御提案を踏まえ、地元区長さんや青豊高校と協議を進めてまいりたいと考えております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

確かに近年、車の性能が良くなって、人にぶつからない、物にぶつからない安全対策が進んでいますけど、まだまだ車社会ですし、子どもたちが巻き込まれる事故がたくさんありますので、十分しっかりやっていただきたいなと思います。

次に、人口減少問題についてお伺いします。近隣の市町村を見ても深刻な人口減少問題を抱えていると思います。人口減少が進むと、税収の減少、医療不足、商業の衰退、1次産業の担い手不足による荒廃地の増加など、多くの問題が発生すると思います。

国においても労働力の不足を賄うため、1億総活躍社会や社会福祉などの充実などを打ちだしていると思いますが、そこで豊前市の対応として、どのような計画をされているのか、何点かについてお伺いさせていただきたいと思います。

まず都市計画の在り方について、お伺いいたします。北九州市では、医療や商店、住宅

地等を集約して、便利なまちづくり、コンパクトシティの計画を打ち出していると思います。また、聞いたところでは、豊後高田市では、郊外に若者を住ませ、中心街に高齢者を住めるような計画を立てているということ聞いておりますが、今後、豊前市がどういう都市計画をもってやるのか、お伺いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

おはようございます。質問にお答えいたします。人口減少社会になりますと、これまでの都市が発展拡大することを前提とした都市計画から、コンパクトな都市づくりへと転換していかなければ、財政的にも将来にわたり都市を維持することが困難となってまいります。

豊前市の都市計画におきましても、コンパクトシティ実現の推進のため、買い物や行政手続きなどを行うことを中心とした区域、それから暮らしのための区域等を定めて、都市機能や居住の誘導をすることにより、インフラ投資の集中化を図り、公共交通機関の充実等により、生活や移動ができるような、そういったコンパクトな都市づくりを目ざしていきたいというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

市長、この点について、どう思われますか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

人口減少時代にありまして、コンパクトシティという考え方は必然な流れだろうと認識しております。

このコンパクトシティ構想の中で、都市機能を中心部に集約することによって、周辺に広く長く使わなければならない道路だとか安全対策、そういう費用を中心部に集中して集約することによって、コンパクトであり、かつ機能を高め、投資対効果を高くできるというメリットがございます。

いま実際に高齢者の方々が周辺部、中山間地域におられる方が、かなり社会福祉施設などに、または高齢者福祉施設などに、ある意味では集団で住んでいただいている。実態的には高齢者の方々が、家はあるけれども、そういう所に移住していらっしゃる実態はございます。

ただ、じゃあ周辺部を若い人たちで豊後高田のようにできるのかどうか、この辺は非常

に難しいところがございますが、チャレンジする価値はあると思います。もしそれが一方的に進んでしまえば、中山間地域の切り捨てという印象を与えかねない。非常に難しいところだと認識しております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

確かに市長が言うように、これを進めると、私が住んでいる所は人がいなくなるような状態になったら、大変困ると思いますけど、それにならないように頑張っていたきたいと思います。

続きまして、地域おこし協力隊について、お伺いします。この問題も以前お伺いしたことがあると思いますけど、協力隊の目的は、都市部の若者が定住してくれることを期待し、また都市への情報発信などの活躍が期待されているのですが、いま現在、隊員としての状況の活動の報告をお願いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

おはようございます。質問にお答えします。現在、7名の方に活動をしていただいているところですが、簡単に申し上げますと、水産振興の担当として1名、観光協会の立ち上げ、運営のスタッフとして2名、地方創生の仕掛け人として2名、魅力発信プロデューサーとして1名、それと水産振興のほうで牡蠣漁師として加えて1名と、計7名で活動していただいているという状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

ことしいっぱい期限切れを迎える隊員の方もいらっしゃると思いますし、期限切れしてしまえば、地域おこし協力隊の目的は、やはり豊前市に住んでもらう、というのがまず第一だったと思います。その隊員の方の去就というか、今後の計画は立っているのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

昨年度末から今年度の初めにかけて、協力隊の方7名と関係課を含めまして、今までの活動実績、それと今後の活動方針について、直接ヒアリング、意見交換をさせていただきました。

その中で、7名、全てがそれぞれに当然与えられた業務を果たすべく、今後もしっかりと取組んでいきたい、という旨の意向は確認できておりますけれども、今年度末をもって任期を終了する方が、いま議員御指摘がございました3名いらっしゃいますけど、はっきりとどういう職にというところが、まだ定まっていないのが現状でございますけれども、もう1年を切っている状況でございますので、今後も今までの活動を踏まえて、御本人の意向を尊重しながら、ただ地域おこし協力隊の趣旨を全うすべく、支援をして定住・移住に結びつけていきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

この点について、副市長、どう思われますか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

地域おこし協力隊を導入して3年目になります。地域おこし協力隊の本来の趣旨、豊前市にとっては人口減少の歯止めになる、そういう人材の取り込みと言いますか、移住によって豊前市を活気づけていただく、それぞれ素晴らしい能力を持った方々でございますし、志を持っていらっしゃる方々が揃っていただいております。

そういう方々に、この3年間、いわば助走期間として活動していただいております。それをまた地域が受け入れていただいているというのが、我々から見たところでございます。

一方、地域おこし協力隊のそれぞれのメンバーについては、豊前市を定住の地として移住の地として選んでいただいた、自分の持っているスキルや経験、人脈、情報発信能力、そういうものを豊前市のために生かしていきたい、そういう思いを持って移られておると認識しております。特に我々が使命として与えております分野以外の能力を持っていらっしゃる方もたくさんいらっしゃいます。

また隊員の中には、幸いにして豊前市の方と結婚をされたり入籍をされたり、また漁師としてしっかり頑張っていこうという活動をしていらっしゃる方もおられます。そういう方々に私たちができる支援は限られてはおりますが、しっかりとその志を達成できるように、自分がそれぞれ持っている力で自立していくという、そういう方向性を確認し、実現できるような手助けをしていきたい、していかなければならないというふうに認識しております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

地域おこし協力隊という制度は、すごくいい制度だと思います。都会から、中々豊前市という所を知らないでやって来て、ここに住んでいこうという制度は、すばらしい良い制度だと思いますけど、今後ですね、もう7人まで入れて今年から募集をかけてないんですけど、もう今後は入れる気持ちはないのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

現在のところ、募集については予定しておりませんが、いま活躍していただいております協力隊の方々の活動状況等を見て、今後また検討できればというところでございます。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

よその地域の協力隊の方を見ていると、よく新聞・テレビなどを見ると、地域おこし協力隊のことが頑張ってくれた、という報道がよくされていますので、せっかく7人来ていただいていますので、定住してもらって、今後活躍していただきたいなと思っていますので、よろしく願いいたします。

次に、農業面をお伺いします。少子化になる、人口減少になると、農業経営がだんだん難しくなって、人口減少・高齢化により後継者不足が心配されると思いますが、どのような対策をされているのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 生田秋敏君**

お答えいたします。若手後継者の育成については、営農から生活面まで、ワンストップで相談を受ける、市・県・JAで構成する豊前市農業産地育成協議会で、新たに農業を始めたい方の情報等を共有連携しながら、就農に向けて、福岡県農業大学校や先進農家等で研修を受ける者に、研修期間の所得確保を支援する国事業の農業次世代人材投資事業を活用し、新規就農者の後押しをしています。

この事業は、独立営農開始後においては、年間最大150万円を最長5年間交付する経営開始型メニューもあります。経営開始後の経済的支援を行うことで、農業の定着を促進しています。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

そこでですね、先日、私どもも東京に視察に行かせてもらいました。その中で、ある方から紹介されてお話をすることができたんですけど、朝倉郡の方で、耕作面積が100町歩、多くの従業員を雇い、しっかり給与面も払って、本当に生き生きされた方でした。そういう方もいると、ああ、農業でも十分やっていけるんだなという感覚を持ちました。

その会話の中で、私は常に5年計画でやっている。5年経ったら次の計画、また5年立てる。どんどん若者に、お前がやらない駄目なんだよ、みたいな感じでやると、仕事を一生懸命やってくれれば、人の使い方もうまい方だなと思いました。

そこで豊前市においても認定農業者や、また法人化が何社かあるみたいですけど、何社くらいあるんでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 生田秋敏君**

豊前市において認定農業者は41名、集落営農法人は9社、集落営農組織が9個あります。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

そういう方はしっかり経営面もやっているんだと思います。そして今後ですね、そういう法人化に向けて支援することが一番大事なことはないかなと思っています。

そこで、いま一般企業が結構農業に打ち出してくる場合があると思います。全然関係のない企業が農業に力を入れてやってくることが多いと思いますけど、そういった計画あたりはないですか。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 生田秋敏君**

今のところ、そういった情報は、私のほうは持ち得ていません。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

そこをですね、やっぱりこれは市長の仕事かなと思いますけど、一般企業、一流上場企業が、JRだって養鶏業をやっているみたいですし、西部ガスだって農業に乗り出そうかということで、市と農業団体だけでは、中々起業ができないところですね、やはり資本を持っている企業が入ってくれば、大きな農業ができて、そこに雇用が生まれ、若者がここに住めるようになるんじゃないかと思いますが、市長、その点、いかがですか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

企業の農業参入、そして豊前市への進出でございますが、課長からは情報はないということでございますが、幾つかそういう打診はあっていることも確かでございます。

ただ、用地をどうまとめるのか、小さな面積で企業参入ということは、中々難しい、分散された、点々と広がった非効率的な用地では、企業の目ざす農業経営には至らない。やはり広域、広い面積が、地域の賛同と言いますか、受け入れる力があって、そして長期間使うことができるという前提条件だろうと思います。

そういう条件が揃う所が、豊前市の中でどれだけあるのか、そういうことも我々の受け入れ力という意味で、しっかり検証していかなければならぬのじゃないか。

先ほど、41認定農業者、9つの集落営農組織、そういう皆さんで、いま支えていただいておりますが、非常に高齢化しております。あと10年先というのが非常に不透明な現状でございますので、そういうチャンスがあれば、我々は受け入れていかなければならぬ時代が、また労働力におきまして、これから先、いろんな変動があろうと思います。そういう受け入れる力が我々の所に試されている。現実にはそういう事態に直面するということになるのではないかと思います。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

確かに認定農業者、法人は若い方が何人か立ち上げているみたいなんで、いいところがあるのかなと思いますけど、そういう高齢化について、もう本当に時間が切迫した時代に来ていると思います。

そこで、農業新聞なんかを見ていると、東京農業大学が男性よりも女性の学生が増えたという記事がありました。それくらい今、若い女性も農業について関心があるんだろうし、若者も農業について段々重きを置いてきたというか、関心を持ってきた。今は昔みたいに畑を鍬で耕してというわけではないんですね。もう本当に科学的な農業だと思います。

そんな中で、増えてきていますので、豊前市もぜひそういう体制をつくっていただいて、若者を受け入れるようにしていただきたいと思っています。その点、市長、どうでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

農女と言うんですか、女性で農業参入を目ざす、もしくは農業に関連する企業も多くな



ってきております。生活、食品、医療、そういうものを目ざす女性がかなり増えてきていることは事実でございます。

その人たちが豊前の農業に参入しやすい環境というのは、どういうものなのか。そして我々は力仕事という農業のイメージを持っております。そこに女性が入ると、どのようになるのだろうか。自動車業界でさえ、白い軽トラからカラフルな軽トラを売り出しているようなところもございますし、女性を受け入れるためにはどうしたらいいのだろうか。

いま一番最先端で話題になっているところは、いわゆるコンバインなどの重機の操縦、無人化、外にいて日陰にいて正確なGPSを使いながら何cmもズレないくらいのコントロールできる機材が現実化しております。

こういうものも積極的に受け入れることによって、女性が木陰で重機を動かし、そして農業に参入できる、そういう環境を整える。そのためには行政としてどういうことをしなければいけないのか、その辺もしっかり研究をしていかなければ、という認識を持っております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

ぜひですね、そういう時代がくればいいなと思っておりますので。

それと農業と言っても交流人口を増やす上で、観光農園、オーナー制度をとったり、田んぼを田植えから稲刈りまでやったり、いわゆる都市部の方を巻き込んでする農業があると思いますけど、豊前市で今やっていることは、何かあるのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

年間を通じてお客様の受け入れをされている所については、豊前フルーツランドさんですね。

その他につきましては、ポイント的に受け入れをするということで、苺の農園さんであったり、スイートコーンの栽培者であったりしております。

観光面から非常にそういう生産現場に対するお客さんの関心も高くなっておりますので、今後そういう滞在型観光の目玉として観光農園に取り組んでいきたい。また交流を進めていく上で、やはり棚田オーナー等も含めた中で、交流が図られるような方策を今後検討していきたいというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

実際に私どものすぐ近所の方で、ゆずのオーナー制度をやって、年間何回か会合や草刈りをやって、秋にはゆずをちぎりに来て、会合をやって一緒に食事を食べてということをやっている方がいらっしゃいます。

だからよその地域を見ると、やはり田植え募集とか、オーナー制の田んぼを募集していますと、一人、結構な値段ですよ。その代わりお米を30kg持って帰ったりとか、60kgはないかもしれませんが、30kg持って帰って自宅で食べてもらう。自分が直接作るお米ですから、非常に安心感もあるでしょうし、そういうことを今後、誰がやるかということになれば、非常に難しいところがあるんですけど、募集をかけてやってみたらどうかと思えますけど、その点。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

議員御指摘のように、現在、道の駅ではお米会員等もいらっしゃいます。そういった方を対象にしたり、枝川内地区では、あじさい祭り等も非常に都市部の方が訪れて盛況を博しております。そういった部分等も組み合わせながら、そういう棚田のオーナー制度等について、検討・研究を進めてまいりたいというふうに考えております。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 生田秋敏君**

中山間地域における農林産業と地域の過疎活動に対するボランティア活動として、県事業の中山間応援サポーターがあります。中山間地域の集落から要請があった活動にボランティア活動に協力、賛同されたサポーターがいれば、剪定作業等、農作業の手伝いの支援を受けることも、ぜひ活用したいと考えています。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

やっぱりどうしても高齢化になってきて、いろんな力を借りながら農業を守っていくということが、先祖伝来、伝えられている田畑、土地ですので、荒らすわけにはいかないとしますので、何らかのいい方法を考えていただきたいなと思っています。

最後に、結婚問題、婚活問題についてお伺いします。この問題も何遍も質問していると思います。確かに出生率を上げなさいという中で、豊前市は、結婚された方というのは、割と出生率は平均よりも高いんですね。ただ、地元を見てみると、やっぱり結婚していない人がたくさんいるわけですけど、今は婚活の活動をやりながら、どれくらいの成果が出てきたのかということ、ちょっとお伺いしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

婚活の現状でよろしいでしょうか。

(平田議員「はい」の声あり)

平成19年から教育委員会のほうで婚活イベント等を実施しております。ことしで11年目ということになります。その間、14回のそういうイベントを開催しております、574名の方が御参加をいただいております。

それで、その成果につきましては、個人情報等もございますので、厳密な調査は行っておりませんが、参加された方の情報とか、そういうのを総合いたしますと、少なくとも5名の方は結婚まで至っているというふう聞いております。

その他、私どもが把握していない中でも、お付き合いをいただいているというようなお話も聞いたことがあります、把握しているのは、そのくらいであります。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

確かに結婚問題というのは、中々心の問題があるので、難しいところがあると思いますが、ぜひやっていただきたいなと思います。

豊前市においても、お寺さんで婚活したという話を黒江議員のほうから聞いたことがありますけど、これは、私はよその地域で聞いたんですけど、お寺ですと、お祖父ちゃん、お祖母ちゃんが、はい、行きなさい、行きなさい、と言うらしいです。だからお寺というのは宗教ですから、あまり言ってはならないんでしょうけど、やっぱりお祖父ちゃん、お祖母ちゃんにとっては安心な場所ということで、どんどん送り出して、かなり成功していると聞いていますので、今後、お寺ですからあまり言えないんでしょうけど、そういう活動をするのはどうでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

婚活のイベントを行いますときに、場所の設定等については、いろいろ工夫をしております、一時期は大きな会場で一遍に、というようなこともやっておりましたし、最近では少人数で雰囲気良くやろうとかいうことも試みとしてはしております。

ですから、そういうところをまたこのことは青年会議所の青年部に委託をしておりますので、実行委員会のほうとも話しながら、そういう場所づくり等、また工夫してまいりますと思っております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

平田議員。

**○6番 平田精一君**

人口減少、中々全国的な問題です。先日、他の市の議長さんとお話をする機会をいただきまして、その中で話が出てくるのが、どうしても第一に人口減少問題、昔は何万人いたのが何千人減ったとか、各市町村、本当にこの近辺では行橋市だけが少し増えているのかな、他はほとんど減少してきています。

やはり人口減少したから、すごくその地域が悪くなるわけでは絶対にはないと思います。一人一人が生き生きとして生きていく、生活しやすい豊前市であれば、人口減少の減少率は下がってくると思いますし、増やすのは中々今からは難しいのかなと思いますので、簡単ではないと思いますが、ぜひ皆さんで頑張ってください、いい豊前市になるように心から願って、ちょっと時間が残りますが、質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

**○議長 磯永優二君**

平田精一議員の質問が終わりました。

ここで、議事運営上、暫時休憩をいたします。

なお、再開につきましては、放送にてお知らせいたします。

御苦労さんでした。

休憩 11時23分

再開 13時10分

**○議長 磯永優二君**

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行します。平成豊明会の質問を続けます。

最後に、黒江哲文議員。

**○5番 黒江哲文君**

それでは平成豊明会、最後の質問者であります、市民目線がモットーの黒江哲文が一般質問を行います。

それでは、質問の趣旨説明をいたします。大きくは1点、市民協働のまちづくりであります。やはり豊前市の市政運営において、市民との携わり、連携は避けては通れないものだと思います。豊前市も協働のまちづくりを重要視しているわけであります。

そこで私のきょうの質問は、小項目といたしまして、交流人口についてを主体に安心・安全なまちづくりについて、この2項目、豊前市の掲げた市民協働のまちづくりの意識で取り組んでいるのか、このような内容で市長はじめ執行部の取り組みや計画など、現状を確認していきたいと思っております。

そこで、まず初めに市長にお尋ねします。市長も市政運営 2 期目のスタートというふうになったわけではありますが、その市政運営にあたり、市民との協働のまちづくりについて、市長の部屋にも、地域コミュニティや協働のまちづくりを重要視した内容が掲載されておりました。その協働のまちづくりへの重要性を、市長はどのようにお考えか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

協働のまちづくりというテーマは、私が就任前から豊前市の基本姿勢の一つとして、また基本課題の一つとして、行政運営の中に位置づけられております。私もやはり行政が議会と一体となって地域づくりを進めるといふ、豊前市を方向付け、そして力づけて活力のある地域に持っていくといふのは、当然のことではございますが、市民がどのようなかたちで関わってくるのか、ここがやはり一番重要だと。

市民一人一人がその中に当事者としていて、そういう認識を持つ地域をつくらなければ、そのためには、地域コミュニティが大事でございます。地域コミュニティによって、そういう場によって、一人一人が、いま自分がなすべきこと、やはり行政が税金を預かっているからといって、全て行政がやるというやり方が行き詰ってきている。そういう時代でありまして、自分たちができることは自分たちで考えて、自分たちの力で自分たちの地域づくりに参画していただく。これがやはり行政と一体となる地域づくりの根幹だと認識しております。

そういう意味で、市民の皆さんが協働のまちづくりに参画しやすい、そういう環境を整えていかなければという認識でおります。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

市長もこのコミュニティにつきましては、常々言っておられますので、よく御理解しておられますし、目ざすところかなというふうに思います。しかし、このコミュニティ、人のつながりというものに対しては、やはり人が関連するものでありますので、現実的にやるというのは、ノウハウ、マニュアルと言いますか、中々難しい問題があろうかというふうに思います。

そこで、今言われた市長の考えを具現化するために、どのように実施しているのか。まずは総合政策課、総務課に質問したいと思います。

第3次行財政改革推進プラン実施計画の中におかれましても、市民参加のまちづくりの推進、市民と行政の協働の推進と、市民の声を聴く機会の充実ということで、この総合政

策課、総務課と挙げているわけであります。この計画は、どのように進めていきたいとお考えなのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

質問にお答えをいたします。いま議員さんのほうから御指摘がございました、第3次行財政改革推進プランの中の大きな一つの柱に、市民協働の推進と掲げられております。

その中でも、特に主な取り組みといたしまして、まず一つは地域課題を地域で解決していこうという地域の中での拠点となります公民館活動の強化、それと市全域を底上げしていこうというボランティアセンター、この2つの核を充実強化していこうという、この取り組みをまず柱として市民協働の推進を図っていくというところでございます。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

市民協働について、お答えします。総務課の担当といたしましては、地域のコミュニティの活性化、特に自治会等におきましては、少子高齢化の中で、地域のつながりが希薄化している状況でございます。そういう中で、今回、安全・安心なまちづくりの中で、災害に強いまちづくりを掲げております。

その中で、自主防災組織という活動を通じて地域のコミュニティをより強化し、地域のイベントとか人間関係、隣の方の顔が見える地域づくり、そういうのを推進していくように考えているところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

いま2つの課より方向性というのをお話いただいたわけであります。この庁内のコミュニティの連携ということが市民に伝わる中では、庁内の連携というのが必要かというふうに思います。

そのような観点から、きょう、提案等、お伝えできればというところではありますが、実施計画の市民の声を聴く機会の充実、このように挙げているわけではありますが、市民の声をどのように生かして政策につなげる考えを持っているのか。執行部の意識、意欲、確認を含めまして、1点目の項目、交流人口について、を通して確認をしていきたいというふうに思います。

やはり交流人口の獲得と言えば、様々な目的、そして通勤・通学、買い物、観光などで地域を訪れていただき、そして消費につなげ地域の活性化につなげるということでありま

す。もう一度言いますが、交流人口、消費、地域の活性化、このようなことが自治体に問われるのではないかと、というふうに思うわけであります。市長も総合的なビジョンを基に各点を改革していく必要があるかと思えます。

そこで市長にお尋ねしますが、交流人口、そして消費を生んでいただきまして、それで活性化に努めていくと、このような観点のビジョンは、どのようにお持ちか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

人口が減少し、経済的活力を失う地域が多くなっております。豊前市も残念ながら、その一角にあるというふうに認識しています。

人口が少なくなり、長寿化していく、そういう社会の中にあって、お金を使ってくれる人たちが少なくなるということは、地域の経済力が低下していくわけでございます。その低下する部分を、住んではいないけれども、いろんなかたちで豊前を訪れる人たちがお金を使ってくれる、物を買ってくれたりサービスを受けたりする、その対価としてお金を使ってくれることが、地元にお金が落ちることにつながります。そのきっかけをつくらなければならない。

訪れるためには義務的に来られる方、医療や福祉や仕事で豊前を訪ねて来る、もしくは人間関係で義務的に来る、そういう方々以外に、豊前に行きたい、楽しみたい、豊前を味わいたい、そんな目的を持って来てくれる交流人口も多いかと思えます。そういうところを観光振興というかたちで、いま豊前市は捉えております。

訪れたいくなる、そして何度も来たいくなる、さらに定住につながっていく、そういう交流人口という施策を、あらゆる面で手を打っていかなければならない、というふうに認識しております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

いま市長より話がありましたけど、やはり市長も、うみてらすに力を入れていくのも、そのような観点の思いがあるのではないかと、というふうに思うわけでありますが、市長にもう一度、1点確認をしたいと思えます。

やはり実際に市政運営において、交流人口、観光消費と商売人が儲けるような、活性化するという理想について、行政がするのはとても難しいという感覚が今までの行政ではないかというふうに思えます。

そこで、市長の考えとして、民間のすることなので、やはり民間の分には中々手が出せ

ない、行政では難しいという考えなのか、もしくはそこまで行政が踏み込んで、商売人が儲けるような活性化をするような環境に踏み込まないと悪いというような考えなのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

民間と行政の役割分担というふうに受け止めさせていただきます。民間がやりたいけどもできない。できない理由に財政的な問題、人間的な人材の問題、さらに情報を限られた中でしか得られない。そういった問題があるかと思えます。

行政は、そういう分野に行政のある意味での持ち分、力を生かして、そして民間の皆さんがやれないところをやるように誘っていく。これが望ましい関係ではないかと思えます。

実際には、そうは言いましても、中々じゃあ民間の人たちがどんなことをしていきたいのか、どんなことを目指しているのか、その情報を持たなければ、我々は支えようがありません。そういう意味では、民間のそういうやりたい情報、そういうものを民間の中で、しっかり構築していただき、そしてここそ行政に手伝え、と言っていただくのが我々の現実的な対応ができるのではないかと考えております。

いずれにしましても、行政は民間が力強く元気に、前向きに活躍できる、その支援をしていくのが基本でございますので、そういう姿勢で取組んでいきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

中々お答えしづらい部分もあるかと思えますけど、気持ち的には、やはり行政はこれから民間経営感覚を取り入れて、やはりその点を引っぱって行くんだというような行政になることが理想ではないか、というふうに私は思うわけではありますが、いま根本的な行政の市長はじめ担当課の考え的なところを確認させていただきました。

そこでですね、先月であります、会派視察に行っていました。内閣官房まち・ひと・しごと創生本部の本部局のほうに行ったわけではありますが、そこで内容として印象的だったのが、今までの地方創生の経過での現状を踏まえた検証、といった説明があったわけです。その中で重要視していた内容が、地方経済と大都市経済で格差が存在と、東京圏とその他の地域との間に稼ぐ力の差が生じている、というふうに国は懸念をしておりました。

この稼ぐ力が重要だということを国のほうは訴えていたわけではありますが、担当課はこの稼ぐ力に対して、地方創生、どのような指導的な部分があるのか、稼ぐ力の認識のどこ



ろを、まず課長の考えを聞かせていただきたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

いま議員さんのほうから御指摘がございましたけれども、やはり地方創生、総合戦略の中に多くの施策を載せておりますけれども、これを実現することによって地域の活性化を図るものでございますので、当然そこに民間の経営の観点、それと関わるもの全てがやっ  
て良かったというふうな認識を持てるような事業の企画実施が必要かと思っておりますので、そういうふうな今御指摘の認識を持ちまして、各事業の企画実施に当たっていくべきものというふうに考えています。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

国のほうは地方創生ということで検証した結果、そういうところに力を入れていきたいということでありましたが、この行政として稼ぐ力というものはどういうものなのか、やはりこの辺を掘り起こしていく必要が、言葉では簡単ですよ、稼ぐ力、これをどのようにこの豊前市で掘り起こしていくのか、という観点であります。

私も交流人口、消費、稼ぐ力の観点から、今の豊前市でどのように取り組むべきなのかというふうに考えてみました。豊前市に交流人口として市外から訪れる場所と言えば、やはり一番に思いつくのが豊前市のシンボル、求菩提山、それから自然豊かな景観、そして数多くの文化財、あと天地山公園や道の駅、うみてらすをはじめ四泉の指定管理施設、そして食、またイベントと、このように思いつくわけではありますが、このような点をどのようにつないで稼ぐ力に生かしていくのか。今の豊前市の重要課題ではないかというふうに思います。

そこで豊前市を訪れるお客様ですね、市外からどれだけ来られているのか、来客数。またどこの地域から来られているのか。そしてどれだけの額を消費しているのか、このようなデータはあるのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

観光入込客データにつきましては、その年、年の集計を国県の指導により行ってきたところでございます。中身ですか。

(黒江議員「はい」の声あり)

中身の最新のデータとしましては、平成27年度の入込客総数が251万人となっております。

ます。地域もですか。

(黒江議員「はい」の声あり)

すみません。主要には天地山公園が5万1千人、豊前温泉天狗の湯が7万7千人、卜仙の郷が5万4千人、道の駅豊前おこしかけが96万人、大体そういったところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

総合計でもいいんですけど、計算されていなかったら、時間の関係上あれですけど、消費額等はされているのか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

消費額もそれぞれの団体から聞き取り調査等を行っております。申し訳ございません。ただいま手元に資料がございませんので、後ほど報告をさせていただきます。

それと後どこの地域からというのは、よろしいでしょうか。

(黒江議員「もう大丈夫です」の声あり)

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

そのような総合計を出した上で、一番重要なのは、この辺の目標数値等を立てているのかというところが気になるわけでありまして、この辺については、どうでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

目標数値につきましては、前回、27年度に策定した、ひと・まち・しごと創生総合戦略の中で立てたところでございます。

先ほどの入込客数から道の駅とかフレスポ等の立ち寄り推定客数を除きまして、26年が基本数値として110万人、目標といたしまして平成31年が130万人、20万人の増加を目標しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

目標数値ということではありますが、実際にこれが正しい数字なのかどうなのかというのは、まだまだ難しい部分があるのではないかなというふうに思います。豊前市の今の総合

的な豊前市の目標ですよね。そこから豊前市の各施設に目標値をしっかりと設けてもらう、やはり交流人口を増やそうと思えば、目標数値が必ず必要ではないかと思います。やはり目標数値を達成しようというふうに思えば、今の現状から何かをやらなければいけないとか、何かを変えなくてはいけない、活性化しようとする力が湧いてくるのではないかと思うわけであります。

そこで、市民から挙がる声も含めて、豊前市の現状、施設等を尋ねていきたいと思いますし、提案したいというふうに思います。

私も豊前市を良くするために何が必要なのかというふうに、市民の声を聞いたりして回るわけでありますけど、何か気づく点はないのか、アイデアはないのかということですが、その中でも、数多く声が挙がるのが、やはり天地山公園の有効活用というのがよく声が挙がるわけですが、それだけ市民も気にかけているようであります。

そこで天地山公園についてお尋ねします。天地山公園の来客数は、大体、年度年度で、変動はどのような感じなのか、目標数値などを定めているのか、お尋ねしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

天地山公園でございますが、昨年度の入場者数は4万7325人でございました。過去5年平均が5万1千人でありますので、昨年度は若干少なめという状況でございます。

変動につきましては、上がり下がりはありますが、大体5万人を境に前後で動いているというような状況でございます。

それと後、入場者数等の目標値等は定めてはおりません。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

本当に天地山は立派な施設ですよね。そのような施設を、やっぱり豊前市民が見ながら、ここをどうにか活用できないかという考えが、市民の声が多いということでありますけど、私が過去の質問でもいたしました。これも市民からの提案の声でありますけど、天地山公園のリニューアルということの提案でありました。そのときに船橋アンデルセン公園の話でありましたが、その公園が日本3位の人気だという説明をいたしました。

内容は、船橋アンデルセン公園は、1年間を通じて様々な花が楽しめる公園、アスレチック、滑り台はもちろん、パターゴルフに変形自転車、ボート漕ぎにポニー乗馬と水遊びが出来る池、ウサギなどと触れ合える小動物園、ミニ列車、1日いても全く飽きない。このような内容であったわけであります。

豊前市もお金を掛けずに部分、部分、ボランティアや企業などに管理をしていただけれ

ばどうかと。恵光園さんも馬を飼っておられますし、池にボートなども面白いのかなと。豊前市が一望できる頂上でカフェは最高ではないかと。花はボランティアなどでもいいかと思えますし、ドッグランやパターゴルフ、変形自転車などは可能ではないかと。

このような提案をしたわけでありますが、その時の答弁といたしましては、返事は、執行部は、ちょっと今の状況ではする予定はない、という回答をいただいたわけですが、今も同じような考えなのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

都市公園百選に認定されております豊前市のシンボルである天地山公園、この活用と言いますか、生かし方、本当に大事だなと、御指摘のとおりでございます。

私たちが、これが当たり前だと思っている、これしかできないと思っているところを、どのように変えていこうとするのか、それをまさに協働のまちづくりではございませんが、地域の皆さんと関係する方々と情報共有しながら方向性を決めていく、それが大事ではないかと思えます。

こういう議論を通して、地域の皆さんの声をいただきながら、いま御提案いただいた中に、実は天地山公園は素晴らしい花の姿を持っておりますが、桜も梅も中に入らなければ分からない。さらに谷に行かなければ見えない。東九州自動車道が開通いたしまして、あの道路には多くの方々が通過客として利用されております。その方々の目に留まるような風景、魅力的な引き込むような姿、そういう天地山公園の在り方も考えていかなければならないのではないか。

我々には幸いにして、すぐそばに民間のミカン農家の方が河津桜を山に植えている、この姿を、花の姿を見に、あの早春、寒い中にコートを着て花見にたくさんの方が来てくれます。あの花の魅力、引き付ける魅力、こういうものをもっと豊前全体に広げていくには、どうしたらいいのか。それが豊前の魅力づくりにつながるのではないか。こんなことを地域の皆さんと関係団体の皆さん、関係者の皆さんと話し合っていく。そしてそこから豊前の魅力をもっと増し、交流人口が増える。

花だけでは、中々経済効果は出ません。その経済効果をどのようにしたらつなげることができるのか、そういう知恵も皆さんと一緒に考えていかなければならないときがきているのではないかと。

もうすぐ紫陽花の時期になります。枝川内の皆さんが、わずかな人たちが地域のために頑張っている、そんな協働のまちづくり。素晴らしい豊前の潜在能力がたくさんあると思います。そういうところを引き出していく、そこに光を当てて力を付けていく、そういうことが我々の仕事ではないかと思えます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

市長がいま言われたとおり、私も行政からやらないと言って、頭から言うよりも、やはり民間団体で、こういうのはどうかということがあれば、良い方法をやはり考えていくべきではないかというところは、いま市長より前向きな回答をいただいたわけであります。

やはりこの素晴らしい天地山公園、財産をどう活用していくか。ここで集客をすることによって、1点、気になりますのが天地山の前に池の所に四季の家がありますよね。そこで昔はよく販売をして、私もかき氷のお手伝いをしたことがあるんですけど、やはりシーズンのときは売上が上がったような印象があったかと思います。

なぜこの辺の消費の部分、やはり関連して増やしていくという必要があるかと思いますが、現在この施設の有効活用。例えばお客さんを増やすことを目指しながら、そこで地域なのか企業なのか、販売していく活力といいますか、その中で、観光案内等、来たお客さんに、どこに行ったら、また豊前市の面白いものがあるよとか、そういったものの活用をするべきではないかというふうに思うわけでありますが、その活用、今どのようになっているのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

農林水産課長、答弁。

**○農林水産課長 生田秋敏君**

お答えいたします。四季の家、正式には天地山農産物直売所と言いますが、平成2年に国県の事業によって造りました。当初は天地山農産物直売所運営委員会、大村食品改善天地山グループと8団体で運営を行っていましたが、問題点として子ども連れや学生が多く、土産を買うお客が少なく、売り上げが予想よりも伸びなかった。また天候次第によりお客が伸びない。生鮮食料品、花等が売れ残った場合の対応が難しかった。さらに当初ですね、当時のほうなんですけど、流れ込む客が少なく、販路拡大が困難ということで、年間目標売上3千万円が達成できず、主に土日・祝祭日の営業をしていましたが、10数年前、営業をやめている次第です。

営業をやめた際、農林水産課のほうで公募いたしましたが、手を挙げる方がいらっしゃらなかったということになります。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

いま課長から説明がありましたけど、やはり市長、それが自然な現象と言いますか、お客が減って成り立たない、地域の声かというふうに思うわけでありますが、やはりそこか

ら知恵や工夫をふり絞っていく。

やはりあそこのグラウンドでもスポーツを結構やっていますよね。ああいう所に、やっぱり地元として独占でジュースや弁当の販売をしたりとか、そういうような、いろんな活動を考えることができるんじゃないか。

そういう観光拠点に観光案内所を含めて設置しながらとか、求菩提のほうにしてもそうですけど、先日、花公園に行きたいというか、シャクナゲを見に行きたいという人が駐車場で悩んでいたわけですね。やはり看板等とか、あそこのシーズンのなところは施設が空いているわけでありまして、ちょっと地元の人が潤うような環境を、販売して消費を、少しでも稼いで観光も共にやっていく、このような仕組みを何かをつなげるためにもっていくという考えが必要ではないか、というところをお伝えするところにしておきたいと思っておりますので、お願いしたいと思っております。

次に、気になってあげたのが求菩提キャンプ場であります。とても素晴らしい施設かなというふうに思うわけでありまして、私も毎年利用するわけでありまして。そこで執行部の考えを確認したいと思っておりますが、まずキャンプ場の利用者、どれだけ来ているのかというところでありまして、これは市内・市外は、やはり市外のほうが多いんですか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

豊前市においては、大半の施設が市外より、北九州市方面、また大分方面のお客が多い状況でございますので、キャンプ場においても同じような状況かと認識しております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

市外のほうが多いということで認識しておきますけど、よろしいでしょうか。

指定管理者もかわったわけでありまして、大体集客数がどれだけで推移しているのか、目標数などをしているのか、その辺を把握されているのか、お尋ねします。もう数字はいいです。分かればお願いします。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

昨年度、5千人弱ということで、一昨年と比べるとかなり増えております。キャンプ場施設管理者としては、今後いろんな改善を行いながら、さらに増やしていきたいという目標を立てたところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

そこでですね、私も現地の確認等、また毎年使うこともありますので、状況は知っているわけではありますが、大体シーズンの週末は、結構もう埋まっているというような話があるわけですけど、確認すると年間あまり使われていない箇所もあるわけなんですね。なぜそのようなバラつきがあるのか、これは担当課の認識をお願いします。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

どうしても親子連れ等、夏場を中心とした活用になりますので、週末、土日が一番活用されているところでございます。

以前はバンガロー等テントサイトで運営していたわけですが、近年ですね、やはりログハウスを導入してきております。グループでログハウスに宿泊される方が最近では主流になってきて、テント持参とか高床式テントの利用が減ってきているという状況でございますが、昨今のやはり自然ブームの中で、バイク等でテントを運んで宿泊に見えられる方も、最近では若干増えてきているという状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

それでは、あそこの施設にバンガロー、ケビン、高床式テント、そしてテントサイトA・Bとあるわけではありますが、この辺の利用頻度の数値は理解しておられますか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

そうですね、ケビンというかコテージがほぼ主流を占めております。バンガローが若干少なく、テントサイト等については、非常に現状では利用率が低い状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

利用率が低い、ちょっとまだ具体的に課長から聞いてないんですけど、使われていない所も多いわけですよ。その辺がどうなのかというのを聞きたいわけではありますが、中を見て回りましても、やはり利用の少ない箇所は、車が入らない、トイレが遠いなど、不便な声が多いようでもあります。利用者が多い人気のバンガローは、車が入る、トイレ、風呂、キッチン、冷蔵庫、炊飯器と設備が整っている、便利がいいというところでありま

す。

昔は私も不便なキャンプ、テントを立ててするのがキャンプというふうに思っていたわけではありますが、どうしても今サービスが整った施設のほうを選ぶ利用者が多いということではありますが、この辺は利用者のニーズに合わせた施設に改善していくべきなのか、どうなのか、この辺の考えをお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

議員御指摘のように、やはりたくさん来ていただくという観点から、利用者のアンケート等も検討しながら、また指定管理者等も十分相談しながら、施設の改善等、図れるところについては図っていきたいと考えています。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

そういう箇所を見ながら、ということでもありますので、実際にこの少ない箇所、使われていない箇所ですね、そうやって今オートキャンプとか、車を止められるようにするとか、入れるようにするとかいうやり方で採算が今以上取れるのか。

もう指定管理で渡していますけど、使わない施設をどういうふうにご利用するかということの項目も、やはり行政としてはいろんな提案をするべきなのかなというふうに、現場と考えるながら思うわけでもあります。

そこで、じゃあそういうことをすればお金が掛かるというような話になったときに、じゃあお金が掛かるなら、利用者が少ない場所、また空いたシーズンにどのようにして集客をする営業努力をするのか、というところが気になるわけでもあります。

実際、今回確認しましても、キャンプ場から営業しまして、市外の小学生か中学生か、利用されていたようではありますが、この辺につきましては、豊前市の学校関係はどうなのか、そのような営業等をやっているのか、その辺をお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

学校教育課長、答弁。

**○学校教育課長 田原行人君**

キャンプ場の利用に関しましては、学校等には、定期的ではございませんが、案内等をするようにしていきたいと思えます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**



初課長答弁だったんですが、一言お聞きしようと思ったんですが、やはりこれも教育課だけではないんですけど、やっぱり担当課内、いろんなPTAから子ども会等があるかと思えますけど、やはり全課で協力して利用者を増やしていく方法とか、そのような姿勢と考える必要ではないか、というところを提案しておきたいと思えますけど、この辺については、副市長、どうですか。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

キャンプ場の施設は県の所有物でございます。中身もいろんな利用の悪いテント、いろんなものがあると思います。そういったことの解消を含めて、県とも協議をし、そしてまた利用者を高めていくために、この施設の管理を指定管理だけじゃなく、豊前市が現在、観光協会を立ち上げようとしております。そういった協会を利用して、学校の生徒、いろんな方々に利用を深めていただくように、協議を深めていきたいというふうに思っています。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

このような例を、今ある豊前市の施設ということで、例に2つ挙げさせていただきました。

もう一つ提案したいことは、豊前市ではやはりイベントの数がすごく多いですよ。このイベントの多さには、他の自治体にも引けをとらないのではないかとこのように思うわけでありまして。しかしそのイベントも、継続していくのに最も重要なのがお客様の集客力というところではないかと思えます。やはりお客さんの来ないイベントは寂しい限りでありますし、張り合いも出ません。また出店者も採算が取れずに頭を抱えていくという結果になるかと思えます。

その対策として、市内のイベントに市内の各団体、各地域の住民の皆様方に、イベントにお客さんとして参加をするよう呼び掛ける仕組みですね、このようなことも必要かというふうに思います。

また地域商品券等も1割増しでやっていますし、カラス天狗祭りも1割増しで券を発行しているわけでありまして。豊前市で認定されたイベント等、前売り券や買い物券、このようなものを出してもいいのではないかとこのように思いますし、さらに交通ルートなどを考えながら、各公民館や区と連携して、回覧板なども含めまして、このように協力し合って豊前市を挙げてイベントを盛り上げていくという考えはどうかというふうに思うわけですが、この考え方にどうなのかお尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

いろんな各種団体のイベントが個々バラバラに、現在、豊前市では行われております。各課の調整も、最近はやっていますけど、中々うまくいかないのが実情ではないかなと思っております。そのことは、やっぱり核となって行っていく、例えば観光協会の関わり方というのは、極めて重要ではないかなと私は考えています。

観光協会の組織とよく協議をして、各種の団体がいろんな行っている行事を取りまとめて、そして一箇所でPRをしていくということが、無駄な経費も掛からないし、うまく行政運営ができるのではないかと、そのように認識しております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

このような仕組みづくりということで、提案ですけど、やっぱり最も重要なのは、そういうところをどうかして収益を上げてつなげる方法がないかという、考える組織の構築が重要ではないかというふうに思います。

例を挙げましても、みなと祭りのときのビックリ夏祭りですね、あれは商工会議所の青年部が立ち上げた中で、私も中に一緒に立ち上げたわけではありますが、当初は何もないイベントですよ。商店街の一人の声で、これだけ人が集まっているのに閑古鳥が鳴いているという中で、やはりこの10年、継続していく中で、いろんな課題と問題があるかと思えますけど、やはりそういう継続ができた。そしてやっぱりその組織を継続していく、やっぱり仲間と連携があったというようなところで、このようなことをやっぱり豊前市内で生かしていくべきではないかという考えであります。

という提案で、ここから現在の豊前市の取組みというところについてを確認していきたいと思いますが、やはりいま大きな取組みとしては、地方創生についてということですが、民間と協働でしっかりと連携できているのかということでもあります。

先ほども言いましたが、地方創生本部局に視察に行ったわけではありますが、担当から直接各自治体の現状の確認をしてきたわけですが、視察の依頼した内容は、豊前市と同じ規模の類似団体で、地方創生の事業での実績や取組み、また観光地ではないけれども交流人口の獲得に向けた取組みなどの説明の依頼をしたわけであります。

そこで数十件の取組み事例を紹介いただきました。その中の取組みでも工夫を凝らす自治体も多数あったわけではありますが、例えば地域の稼ぐ力を向上させるために、遊休資産の有効活用が必要だと。空き家店舗の活用対策として、多くの地元の関係者を巻き込んで商店街を活性化させた、このような事例もあったわけであります。

また1次産品や観光資源、地域の特性を活用した仕事づくりを推進するため、先導的地域商社事業、地域間で連携ビジネスモデルを共有して、地域商社の成長を旨とする取り組み。またスポーツでまちづくり、このようなことも例としてありました。

中には人材支援制度もあり、地方創生に積極的に取り組む市町村に対して、意欲と能力のある国家公務員や大学研究者、民間人材を市町村長に補佐として派遣する、このような内容もあったわけですが、ここで勉強に行きますと、いろいろと学ぶことがあるわけですが、ここで執行部や担当者は、このような視察、勉強する場ですね、このような時間があるのか、やっているのかお尋ねしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

地方創生の時代にあって、地域の特性を生かしながら地域の知恵と力を結集して、これからの時代を切り開く、まち・ひと・しごと、そういう分野で、どのように豊前市が他を学んでやっているかという御質問だと思います。

実は、現実では、職員、課長級をはじめとして、幹部を含めて、中々他の自治体に出向いて、そういう情報を直に貰って、それを生かしていくチャンスは少ないのが実態であり、実情でございます。これではいけないという部分はありますが、現実にはその時間とお金、掛けるだけの能力がいま少し足りないというのが、私が実感しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

そういう事業に生かせるため、そういう時間と場も必要かなというふう感じたところですが、豊前市のこの地方創生の取り組みに入る前に、1点、これは目安箱に入っていたんですけど、豊前市民でとても居心地がいいのですが、ある雑誌に豊前市のここが駄目と載っていたという目安箱を、市長、見ましたですか。

これはどこの雑誌か分からないですが、書いている内容が、豊前市のここが駄目ということですね。これといった特徴がない、これといった観光の目玉がない、行橋に隠れて存在感が薄い、のんびりしている割には我が強い、コンビニを探すのが大変、ヤンキーが多いとかですね、外部から見ても気づきがあります。豊前市をもっとPRしましょう。豊前市の活性化のために頑張りましょう、という目安箱があったわけですが、この雑誌も入っていたわけですが、そこはあんまり激しいことが書いてあるなど。ヤンキーが多いとかですね、一人もいないような気がしますが。

地元での調査の結果ということですが、このように書かれたわけですが。このような印象が調査であるのかなというふうに思うわけですが、この地方創生を活用して、この

豊前市の取組み、これは26年度からですかね、26、27、28と、この資料をいただいているわけですが、これが27年3月補正の分、(資料提示あり)これは26年度分ですか、8事業を掲載している分ですよね。これにつきまして、事業を見ますと、この中に民間から提案してきた事業なのか、それとも執行部のほうで考えた事業なのか。

事業を見ますと、ちょっと豊前市の既存の事業を調査し載せたというような印象があるんですけど、この辺については、どうですか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

まず事業の経過でございますが、一つは職員と言いますか執行部のほうで提案させていただいた事業もございますし、議会の御指摘をいただいて事業化したものもございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

その事業が27年ということによろしいんですか。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

はい。27年度からの事業でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

そうすると次の28年度事業ですね、これが7事業を掲載しているわけですね。これは観光振興の事業が5つくらいあるわけでありませう。

まず、ならばこの観光振興のほうで民間からあがってきた事業なのか、この辺の費用対効果が出るような事業なのか、この実績があれば、簡単でいいんで、お願いします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

事業の計画された経過について、私のほうからお答えをさせていただきます。総合戦略に基づきまして実施をさせていただいた事業でございますし、職員提案の分もこの中には含まれてございます。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

この部分につきましては、ひと・まち・しごと総合戦略に定める交流人口の獲得、観光振興を図っていくという項目に沿って手挙げをしたものでございます。観光振興推進事業につきましては、地域観光振興組織の推進や観光振興計画の策定のほか、観光PR等も行っております。そういう部分について言えば、かなりの効果が期待できるものでございます。

次の地域ブランド開発推進事業につきましては、特産品のマーケティング調査等を中心に行ったものでございます。豊前市の特産品、お土産物について、現状把握、課題等の整備をしながら、今後ブランド化の推進を図っていくための基礎的な資料にしたものでございます。

地域資源活用事業につきましては、空き家である古民家を改修して、地域拠点と外からの人の受け入れを図っていく施設として整備を行ったものでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

観光の部分につきましては、それと後ブランド開発ですね、この辺につきましては、これから成果につながる材料だというふうに認識していますけど、よろしいでしょうか。

いま古民家事業ということで説明があったわけでありますが、この事業につきましては、民間から発生したのか行政から決められたのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

古民家の改修事業につきましては、総合戦略の施策を検討する段階で、職員のほうに提案募集をして、職員のほうから挙がってきた案件でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

おそらく民間で話をする組織というのは、このときはなかったのかなというふうに思いますけど、職員から挙がったということでもあります。

この古民家事業につきましては、順調に進んでいるのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

古民家事業につきましては、その具体的な活用方法につきましては、現在、立地地区と共

に活用を、協議会を設立し、具体的な中身の検討に入るところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ではまだ営業はされていない、計画的な部分が、これは時期的にどうなんですか。通常はもう今期で営業をスタートしておかないと悪いタイミングじゃないですか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

古民家をリフォームしていくという過程において、中々活動、営業等のイメージが難しい部分もございまして、また地元からのいろんな意見を吸い上げるためのアンケート調査等の実施もございまして、そういったものを基礎に今後詰めていくという状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

だから今後詰めていくのは分かるんですけど、これは、予算はいつ出したんですかね。もう実際どこの主体が受けて、どのような営業で、どのような費用対効果を生んでしていくのか、ランニングコストがどう掛かって、どうしていくのか。もう実際にできていないとおかしいと思うんですが、どうなんですか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

やはり地域の方と十分相談しながら、豊前市に来て豊前市の農林水産業なり、地域の人々との体験交流を通した中で田舎暮らしを実感していただく、という施設になる予定でございますので、やはり地域の皆さんの協力が十分得られるように、慎重に進めてきたところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ということは、この計画に対して、このような運営内容でやっていくというのを決められてするのか、それともその協議会の中で民泊なのか、どういう使い方なのかというのが、まだ今の段階ということですか。

**○議長 磯永優二君**

観光物産課長、答弁。

**○観光物産課長 中川裕次君**

どういう運営をとるのかですね、地域との関わりをどういうふうにやっていくのか、どこが主体になるのかということについては、やはり地元の意見を十分聞いた上で計画を進めていきたいということでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

これ以上言ってもあれでしょうけど、基本的にはタイミングが遅れとるのか、どうなのかというのを聞きたいんですよ。もういま大体実施していないと悪いタイミングじゃないですかと。次に私がお伝えしたいのは、やはり補助金ありき、補助金があるからいくんじやなく、やっぱり地方創生というのは、民間で考えてどうしたいということを使っていくのが、通常の地方創生の使い道のルールだと思うんですよ。

だから民間と決めてつくられたのか、行政が決めたのだったら、そのルールはしっかりと、どういうふうにするということを、せっかく古民家を提供していただいた方もいるわけですよ。というふうになったら、有効活用できるのを早急にしないと悪いのに、もう遅れているんじゃないですかと。その辺を立ち上げるのを早くしないと悪いのに、その辺のタイミングがどうなんですかと聞いているんですよ。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

私も実際に古民家を見せていただいております。趣旨はおっしゃる通りでございます。ただ遅れているかどうかというと、実際にはおっしゃる通り遅れている部分がございます。ただ、古民家ですので、シロアリの調査がやはり十分ではなかった。剥いでみてやっとな、あ、ここまでできていたのか、という実態が分かりました。

その補修に床下でございますので、かなり時間を要しました。と同時に、やはり地元の皆さんが運営に関わっていただくという、そういうやり方でございます。担当者を決めて、そこに置いて民間に任せていこうというんじゃなくて、地元が地域として受け入れて、地域の田舎暮らしの在り方、神楽の盛んな所でもございますし、伝統的な祇園もございます。そういうのを農業も含めて、地域の人たちが立ち上がり、受け皿としてなっていたかなければなりません。

課長が申しあげましたとおり、地元の方々に説明をし、協力をお願いする、その協議会がまだすっきりとまとまっているわけではございません。これもやはり地元の皆さんにとりましては、実際に出来てみないと分かんないと、どういうふうに使うんだと。この部屋が

どうなるのか、この家がどうなるのか、実際に出来上がってじゃないと実感がわからない部分があったんじゃないかと思います。

そういう意味では、我々も急いでおりますが、地元の皆さんの受け入れる態勢がきちっと整わなくて、拙速、歯車がかみ合わないままにスタートしたんでは元も子もありませんので、課長が申し上げたとおり慎重に進めているところでございますので、理解をしていただければと思います。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

地元の方としっかりするためということでもありますので、その辺はまとめていただくということで、そういう認識でしておきたいと思いますが、実際にこの補助金がつくタイミングと、通常であれば、民間であれば考えながら提案していくということが必要かと思いますが、タイミング的に難しいところもあるのかなというふうなところですね、またその辺も今後確認させてもらって、地方創生の有効活用をしっかりしていただきたいというふうに思います。

次に、気になる点が、これは3枚目のプリントは、藤井課長、これは28年度分ですかね、2事業載っている分ですね。

(総合政策課長、頷く)

28年度分ということではありますが、やはりこの事業が2つしかないわけですね。官民で実際上がってきた計画なのかというふうになりますと、これもそうでないのかなというふうに思うわけでありませう。

これが自治体の大きな問題というふうに、この地方創生の、国のほうもですね、どういうことかと言いますと、やはり補助金が出る中で、やっぱり民間と連携して上げていくというタイミングですね。これがしていなかった所は、やはり民間とつながるというところについて、自治体の事業の提案していく内容が頭打ちしてきている、というような現状が生じているということを書いていたわけでありませう。

やはり地方創生の補助金は、大きな課題としては、市民協働で立ち上げていくということではありますが、国の方も、ばらまきでは駄目だ、補助金ありきの計画では駄目だと、官民が連携して、工夫して、現実味のある計画を絞って出してくれと、このような予算につけていくというのが総合戦略の策定というふうに聞いているわけではありますが、実際この事業が2つということでありませう。

今後の計画的な分は、どうなんでしょうか。お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。



## ○総合政策課長 藤井郁君

ちょっと私のほうの説明不足がございました。まず事業の計画につきましては、職員提案の部分もございますけれども、民間、市民の方を含みます、創生会議の中で、しっかりと議論をしていただいて、決定されたものでございますので、その策定の過程も、まさに議員さんのおっしゃる、市民協働のまちづくりということになろうかと思えます。申し訳ございません。

いま議員の御指摘のございました、2事業でございますね。1つがですね、連携中枢都市圏の分、これが28年度から31年度までの4カ年と、もう1つのうみてらす豊前を拠点とした、地域間交流、これが28年度から30年度にかけての3カ年の事業になってございます。

## ○議長 磯永優二君

黒江議員。

## ○5番 黒江哲文君

ぜひですね、いま事業内容というのがあったわけでありまして、市長、見てみましても、総合戦略の策定ということですね、そこから始まって、いろいろ民間から上げてきて、ということでもありますけど、その組織づくりを今やっていくということで、私も過去の、この一般質問でもですね、豊前市のこの観光を考えたり、総体に考える組織はどこにあるのかというところの中で、いま観光協会等ですね、いろんな、まとめるということ考えていっていることかというふうに思いますが、やっぱりこの辺の仕組みが、上手くバランスが取れていかないと、いろんな事業が、おそらくこの地方創生を見ましても、現場から上がって、やはり現場から上がったものは一緒に連携するので、予算がついてもスムーズに動くんじゃないかなというふうに思います。

この辺をしっかりといただいて、補助金ありきじゃなく、事業につなげるようなかたちにしていただきたいというところを、この地方創生の事業からお願いというふうにしておきたいと思えます。

次に、このいろんな豊前市の組織があるわけでありまして、やはり、このいろんな豊前市を担って、協働のまちづくりで担っていくには、地域で頑張っているボランティア団体、このようなことについて、地域のためにやる気があるけど中々きっかけがない、などの環境について、気になりますので確認していきたいというふうに思います。

はじめにですね、豊前市の取り組みで、この事業は面白いと感じた事業がありました。過去の質問でも話をしたわけでありまして、何も無いところから、ボランティア団体を立ち上げていく、この仕組みは、さらに肉付けをしたら面白いんじゃないか、というふうに質問したわけでありまして。事業名は、地域活動実践型生涯学習事業ということでありましたが、この事業は県がきっかけで始まったと聞いております。

内容は、地域のために、何かしたいと考える人材募集から始まってですね、参加者で何をしたいか議論し、事業内容の方向性でグループ別に分ける。そして、各グループごと、共有する参加者同士で具体的に何をするかを詰めて実践していく、というふうに聞いたわけではありますが、この事業の経過はどのようになっておられますか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

お答えいたします。議員さん、おっしゃいますように、これは平成27年に、県の補助事業として取組みを始めたものでございます。

平成27年度には、22名の方、御応募いただきまして、都合7回の座学、それから実践を実施しております。その結果ですね、新たに4つのボランティアグループが活動するというふうな成果がございました。

その後、やはり、単年度だけでは、中々あと継続して事業の継続は困難だろうということで、28年度は、その市の単費でフォローアップと、また新たな人材の掘り起こしということで、事業を進めているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

この事業ですね、少しずつ成果というのも聞いているわけではありますが、私はとても面白い、意味のある事業だというふうに思うわけでありまして。

豊前市のために、何かしたいと思っても、きっかけがなければ活動する場もない、このような方々が、たくさんいるのではないかというふうに思うわけでありまして。そして、そのような事業を掘り起こしていくと、このようなモデルになる、仕組み的な分はですね、そのように思います。

そこでですね、市長にひとつ提案でありますけど、生涯現役を市長も推進しているわけでありまして、高齢者の方もいろんな経験をお持ちの方、優れた方ですね、市長もいつも言われておられますけど、たくさんいるわけでありまして。実際に、豊前市のために何かしたいと、したいけど受け皿がないなどの話も耳にするわけでありまして。

この地域活動実践型生涯学習事業、このようなやり方で、高齢者の、ボランティア団体、このような掘り起こしをしてはどうかというふうに思うわけでありまして、どうですか。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

豊富な経験を持ち、豊かな知識を持った方々が、高齢者の中にたくさんいらっしゃいま

す。なおかつ、地域のために、人のために、自分の力を尽くしたいという、ハートをお持ちの方も、おるように感じておりますし、実際にそういう人たちに、生涯現役社会の中で、人のために、家から出て活躍する場、それぞれ思いは異なっている部分があるかもしれませんが、そういう人たちが扉を叩きやすい、そんな扉をつくらなければ、というのが我々の今の課題でございます。

いろいろな組織・団体に、ガイドボランティアの皆さんとか、歴史ボランティア、先日の土曜日でございましたが、うみてらすの1周年の中で、宇島の歴史散歩みたいな、ウォーキングがございました。あの中で活躍していただいた区長さんは、本当に自分でふるさとの勉強をし、それを伝えていこうと、遠来の皆さんに、外から来た方々に、宇島を知っていただきたいという思いで、自分の勉強してきた知識、積み上げた経験を披露していただきました。暑い中で、笠をかぶって頑張ってください、汗を流していただきました。

人のためにやろうという、そういう人たちの力を、どのように引っ張り出すことができるのか、大きなテーマでございます。

どのようにやればいいのか、先ほど冒頭でありました、やはり公民館だとか、そういうコミュニティの場、そういう場を活用して、そういう人材を掘り起こしていく。これは本当に御指摘の通り、大事なことでございますので、頑張っていきたいと思っております。

#### ○議長 磯永優二君

黒江議員。

#### ○5番 黒江哲文君

いま市長言われましたけど、やはり地域に頑張るボランティア団体の方とか、たくさんおられるんですね。

ある定年された方から、定年をして豊前市のために何かしたいということで、ボランティア等、豊前市の、免許を取る分とかですね、免許を取ったりしたけど、その使い道が分からないとかいうような環境もあるようであります。

そこで、やはりその豊前市の頑張っているボランティア団体を、どのように組織を構築していくのか、実際いま課長のほうから話がありました。せっかく良い事業をして、ボランティア団体を立ち上げて、そのボランティアたちがどのような環境でしているのか、この管理体制はどのようになっているのか、お尋ねします。担当課でいいです。

#### ○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

#### ○総合政策課長 藤井郁君

本来でございますと、総合政策課の方で、その辺の、市内のボランティア団体、市民活動団体等の情報の一元化等を所管するところでございますけれども、現在のところ、その所管が出来てないということが事実でございます。

ただ、行財政改革推進プランの中にもございますように、ボランティアセンターの充実というものを掲げておりますので、そのセンターの充実を図る中で、その情報の一元化等にもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

取組むと言われているわけではありますが、これをまとめていくのは、やっぱりかなり組織構成とか考えないといけない分とかあると思うんですよね。

例えば、組織を上手く立ち上げられた。豊前市でかなり頑張っているボランティアがいるというふうになったら、管理を社協がされているのかというふうに聞いているわけでありまして、このボランティア団体に、じゃあどれだけの予算を使われているのか、お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

いま議員から御指摘ございました、ボランティアセンター自体はですね、平成9年から社会福祉協会の方で運営されております。社会福祉協議会での、大体の年間の予算が、約100万程度ということで聞いてございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

100万程度ということではありますけど、やはりいろんな豊前市の中で事業をするにあたって、ボランティアの方が予算を使うのは、やっぱり行政が使うよりですね、本当に3万、5万でも十分な成果を上げる事業とか、たくさんあるわけでありまして。やはり、この辺をどうするかというところを、ちょっと質問をしていきたいわけでありまして。

私は、そのように地域のために活躍するボランティア団体に、民間活力を最大限に生かしていくためには、何が必要なのかということのをですね、積極的にやる気をもって地域のことをしてくれる団体に、行政ももっと手厚くサービス。それがどういうことなのかと言いますと、私が一般質問で訴えてきておりました、市民公募型の補助事業ということでありまして。

早速ですね、5月の市報の方にも掲載していたわけでありまして、この進捗状況をちょっと確認していきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

豊前市地域支援事業ということで、昨年まで子ども夢応援事業として実施しておりましたものを、地域の活動にもいろいろできるというふうに、採択範囲を広げましてですね、5月末を目途に公募をさせていただいたところでありまして。5月末段階で26件の応募をいただいております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

26件ということで、この予算、申請額等はどのような感じだったのでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

いま事業執行中ではありますが、申請額約140万円程度でございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

140万円ということではありますが、この分が通常もともと夢応援事業の事業を、この地域支援事業補助金にかわったということでもあります。

過去やっていた、夢応援事業につきましては、子どもと大人のふれあいとか、公民館活動とか、このような縛りがあったかと思いますが、この地域支援事業は、地域の活性化につながるのなら、という対象になったというふうに聞いておりますが、どのような内容ですか。

**○議長 磯永優二君**

生涯学習課長、答弁。

**○生涯学習課長 栗焼憲児君**

地域の様々な課題等ございますので、そうしたものに対応できるということで、議員がおっしゃる通りでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

この件についてはですね、副市長、市長ですね、生涯学習の枠を超えて、私は本当に良くやったな、というふうに思うところでもあります。

とても素晴らしい事業だと思いますし、気になるのが、やはり豊前市に団体たくさんいるわけではありますが、26件の140万円ということでもあります。この辺についてですね、

今後の方向性については、どのようなお考えか、副市長お尋ねします。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

本年度は、26団体140万円程度の要求ということでございます。

今いろんな精査をして、補助金を既に受けている団体はいないのか、そういったことも調査を含めて行っておりますが、今後につきましては、こういった事業で、いろんな要求が出てくればですね、こんなことをやりたいというのがあれば、財政の件もありますけれども、市長ともよく協議をして、要望をかなえるように努力をしていきたいというふうに思います。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ぜひですね、やはり先ほど市長も言われておりましたが、やはりこういう頑張っている民間の方が、行政がお金を使うのではなく、やっぱり民間が使っていくという仕組みづくりが、この協働のまちづくりの組織と並行して重要なのかな、というふうに私は訴えてきたわけでありまして。

今回ですね、今議会でも、観光課からも少し上がっておられますし、会議所のほうでもですね、このTMO事業として公募型事業というのが上がっているわけでありまして。

実際TMOの実績も聞いておりますか。

**○議長 磯永優二君**

商工課長、答弁。

**○商工課長 大谷隆司君**

ちょっと今、手元にですね、具体的な件数、金額等は持っておりませんが、昨年、それから今年度もですね、既に募集をしているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

いきなり振りましたけど、実際、応募数が少なかったということなんですよ。今回140万円の26件ということでありますけど、本当は、内容をやっぱり周知できれば、まだ数多くの方が、なるのではないかと、これもう、民間の方から話を聞きましても、補助金を貰うっていうのは、後々しゃあしいとかですね、そのような印象がすごく強いわけでありまして、今回の生涯学習課の事業を聞きましても、結構柔軟性を持った部分がありますので、やはりこの辺はですね、やっぱり市内でいろんなボランティア団体等、情

報収集をしながらですね、しっかりと。

また逆にですね、そこまで使わなくても良い補助金については、そのままずっと続けるというのは良くないと思うんですよね。しっかりチェックをしながら、補助金の有効活用をしていていただきたいというふうに思いますが、市長、いかがでしょうか

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

地域のために、また周りの人たちのために、豊前市のために力を尽くそうという、その舞台づくりを自ら提案して、それに財政的に市が負担をしていく。そういう協働のまちづくり、まさに理想に近い姿でございます。

しっかり方向性を持って、どんな狙いがあるのか、どんな効果が生まれるのか、1年では分からない部分もあろうかと思えます。短絡的に見るのではなく、やはりそういう人たちを育てていくという、そういう面からも一緒に取り組んでいけたらと思っております。

また、今回知らなかった、知っていれば手を挙げたのに、という方々もおられるかもしれませんが、より広く市民の皆さんに知っていただく事業であるということをしてPRする、そういう働きかけといたしますか、努力もしていかなければと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ここにつきましては、協働のまちづくりを訴えていく豊前市といたしまして、やはり組織をどうまとめていって、どういうふうに民間活力を掘り起こして、豊前市の活性化につながるか、ここにつきましてはですね、私はもう少し、市長にグウッと意欲を感じてもらいたいと思えますし、このリーダーシップを市長が問われてくることだというふうに思えますし、重要な課題だと思っております。

ぜひとも庁内をまとめ上げて、協働のまちづくり、しっかりと成果が出るように、期待したいというふうに思います。

次に、安心・安全なまちづくりについて、過去にも一般質問してきましたが、進捗状況の確認をしたいと思えます。過去の質問についてはですね、日本一の安心・安全なまちづくりを目ざしてくださいというお願いであります。

いま全国的に不審者や様々な予想外の事件等が、毎日のように報道されているわけがあります。豊前市でも、何かあったら遅いということで、ドライブレコーダーの取り付けという提案をさせていただいたわけですが、この進捗状況を確認したいと思えます

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

ドライブレコーダーの進捗状況についてお答えをいたします。昨年度、議員さんから提案ありまして、年度末、豊前市所有の公用車53台にドライブレコーダーを購入し、本年5月より運用を開始しております。

ドライブレコーダーは、市内を走る公用車が交通事故や犯罪などの画像情報を記録することで、犯罪への抑止効果と、犯罪や事故発生時には容疑者の特定にも役立つなど、動く防犯カメラとして、その役割を果たすことが期待されております。

また、市内の駅や小・中学校に、安全・安心に向けた防犯カメラの設置を、計画的に進めてまいるところでございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

本当にですね、敏速な対応をしていただきまして、本当に素晴らしいことだというふうに思っておりますが、やはり先日もですね、殺人事件があったときにドライブレコーダーに何台か映っていたということで、そのようになったわけではありますが、この犯罪者に対して、いかに豊前市はこういうふうに充実しているから、ちょっとまあ抑止力になるような動きと言いますか、このようなことを実際これから今後の計画として、どのような計画をするべきかと考えているのか、計画をお尋ねしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。この件につきましては、先般、豊前警察署との間で、ドライブレコーダーや防犯カメラの情報提供などを盛り込んだ、安全で安心な防犯まちづくりに関する協定を提携させていただきましたので、連携を取りながら、適正に運用させていただきたいというふうに考えております。

ドライブレコーダー設置車については、その側面にドライブレコーダー作動中というステッカーを貼って、市民の皆さんにPRしているところでございます。

今後は、企業や市民の皆さんにも、市報等で積極的にPRをして、設置について呼びかけてまいりたいというふうに考えております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ぜひですね、先ほども言いましたけど、いろんな、学校教育関係にしましても、福祉関係にしましても、いろんな防犯対策をしている組織やボランティア団体もあろうかと思



ます。この辺とですね、しっかり連携できるような仕組みを作っていただきたいというふうに思っておりますが、副市長、この辺どうでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

まさに議員の言われる通りだと思います。ただ、個人情報のいろんな関係がありますので、内部でそういった条例関係もしっかり整備をして、その運用についてしっかり今後進めていきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ぜひともですね、犯罪ゼロのまちと、市民が安心・安全に過ごせるように、しっかりと連携を取ってしていただきたい、というお願いにさせていただきたいというふうに思います。

最後に1点ですね、きょうの協働のまちづくりの締めといたしまして、豊前市の環境。計画の中にもありましたけど、市民の声を聴き、政策につなげる、というふうにあったわけではありますが、私の、豊前市の中で直近でちょっとこう気になるな、と思ったことにつきましては、岩屋地区の問題についてであります。

やはり豊前市の行う政策ならですね、海なら海、山なら山、ということではなくですね、不公平感のない、市民の納得する取組みが必要ではないかというふうに感じるわけであり

ます。そこで、岩屋地区と議会と意見交換会があったわけでありましたが、多くの課題や不安がありましたし、要望も上がっておりました。

意見交換会の中で、地域の不安というものが私もよく理解できたわけでありましたが、主に内容はですね、豊前市の観光といえば、岩屋地区に結構集中していると、その中で、その観光地を担っていくのに、やっぱり高齢化によって人材不足になっている、今後の岩屋地区を担う若者もないため、今後が心配でたまらないと。それでこのようなときに、豊前市にも連携してしっかりやっていただきたいと、このような思いが、たくさん内容があったわけでありましたが、確かに岩屋地区の方々、活発に活動を積極的に行っている方が多いかと思えます。

ぜひですね、これもう10年後とか20年後になるとどういうふうになっていくか、この辺の視野をしっかりと考えていただいて、対応していただきたいというふうに、観光資源をしっかりと大事にさせていただきたいということを、市長、一言お願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

岩屋地区は、私たち豊前市にとっては、宝の山でもございます。これまで、豊前市、県、かなり大きく力を入れてきたところではないかと思えます。ト仙の郷しかり、求菩提資料館、いろんな施設もございます。

ただですね、森林セラピーだとか、あの自然景観、環境を求めてやってくる方々、そういうニーズもございますし、またプロ野球の選手が、あの修験の山で籠って頑張っていた。いろんなドラマもある、物語も眠っております。

また地域で、あじさい祭りなどですね、岩屋は、しゃくなげ祭り、あじさい祭り、やはり地域が立ち上がっていただいて、今日までできました。先ほどのキャンプ場を目ざして来る、河川プールを目ざして来る人たちもたくさんいらっしゃいます。

そうした中で、地域の長寿化ですね、高齢化ではなく長寿化でございます。長寿化によって、その一人一人のパワーが、落ちていることは否めないかもしれません。ここで、じゃあどうするのか、行政でどこまでフォローできるのか。地域の皆さんとですね、お話をしながら、どうやったら活力が生まれていくのか、さらに、あの資源を生かしていく、そんな力が生まれていくのか。

これから、地元の皆さんともしっかり協議をしながら、今までやってきたことも含めて、さらに何が出来るのか、これを取組んでいきたい。そのためにも、地域の皆さんが持っていらっしゃる思いがございます。そういうものをしっかり受け止めながら、地域の中で、自分たちがまさに地方創生の中の、豊前市の中における地方創生をやろうとしている気運もあるように、私は感じておりますので、その流れを大きくし、力をつけるように、行政として取り組んでいきたいと思っております。

**○議長 磯永優二君**

黒江議員。

**○5番 黒江哲文君**

ぜひとも、よろしくお願いたしたいと思えます。

最後になりますけど、今日は市民協働のまちづくりということですね、中心に質問をしたわけでありましたが、いま岩屋地区の話もさせていただきました。そして、商工会議所からも、たくさんの要望書が上がっているかというふうに思えます。

もちろん、市長のところにも、たくさんの要望の声が挙がってきていることかというふうに思えます。

いま市長も言われたように、おそらく全てをやるということは難しいかもしれないと思えますけど、私からのお願いとしてはですね、必ず、全てとは言いませんけど、市民の声をしっかり拾ってですね、市民としっかり話し合っ、やはり我々議会で訴えていくこと

につきましては、説明を聞いてないとか、これはこうだという手順についてのことが一番気になるわけでありますので、今回、協働のまちづくりということで、市長も計画で、市民の声を拾いながら、そして市民の声を政策につなげるというふうに訴えているわけであります。

ぜひですね、言葉どおりの行動がしっかりと取れるように、また、市長の2期目のスタート、豊前市発展に向けて、しっかりとコミュニティの構築ができ、豊前市を前向きに持って行っていただくことをお願いいたしまして、私の一般質問とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

### ○議長 磯永優二君

黒江哲文議員の質問が終わりました。

ここで、議事運営上、暫時休憩いたします。

なお、再開につきましては、放送にてお知らせいたします。

休憩 14時43分

再開 15時00分

### ○議長 磯永優二君

休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行します。

古川哲也議員の一般質問を行います。古川議員。

### ○10番 古川哲也君

本日最後の一般質問であります、古川でございます。季節が変わるときも早いもので、この前こそ我々地元の祇園が済んだかと思ったら、先週は梅雨入りということでもあります。いろんな議員さんから防災、安心・安全のまちづくりについて質問があつておろうかと思えます。一番今から災害が多い時期でございます。皆さん、市民の生命と財産を守るのが市政の一番大切なところですから、よくよく考えて、市政を行っていただきたいと思えます。それでは発言通告に従いまして、質問をさせていただきます。

私は今回、3点につきまして、質問をさせていただきます。1番目は、教育行政の今後、また2番目は豊前市の会計について、3番目には、市長の方針演説に対しての質問でございます。

まず、はじめに教育長に質問でございます。教育長は私の恩師であります。学校の教員から、また、まず学校の管理者です。また豊前市の管理者、この経歴をお持ちです。

教育長も一生懸命頑張ってきたことは、私も正面から、側面から見て、よくよく理解しているつもりでございますが、教育長も長年にわたって教育行政に携われてきて、まず率直に学校教育と社会教育がありますが、まず学校教育のほうからのほうを議題とさせていただきます。

学校教育において、豊前市、ここがもうちょっと足りないとか、ここにちょっと不満があるとか、またここ辺を改善しなければならないなという点がありましたら、教育長の私見で結構でございますので、答弁をお願いいたします。

**○議長 磯永優二君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

思い起こせばというところで随分ありますけど、簡潔に言いますと、教育行政の中身というよりも、施設設備について、私は何とか子どもたちに明るい環境、きれいな環境、落ち着いて学習ができる環境を提供したいなという思いを持っておりましてけれども、私の力不足のために、その改善に寄与できないというところが非常に残念でありますし、予算的に、教育委員会として予算を持っておりませんので、非常に苦しかったなという思いは持っております。

内面的なことを言いますと、豊前市の平成29年度の教育基本構想を教育委員と共に議論をしながら作っております。これは、ちょっと必要であれば説明しますが、置いておいて、私見というかたちで議員が言われましたので、私の考えは、子どもたちが成人した中で、これからの子どもたち、世界を股にかけて、あるいは日本国のリーダーとして、可能性を秘めた子どもたちがたくさんおると思います。

しかし、そういう子どもたちをたくさん輩出するのではなく、私は、地域の中にふるさとを愛する、地域を愛する、そういう子どもがたくさん育ってほしいな、という思いは持っております。

もっと言いますと、議員を例にとって申し訳ないですけども、やはり家庭を大事にし、家業を継ぎ、地域の中で消防団に入り、お祭りを大事にし、というような子どもたち、大人が豊前市にたくさん育っていけば、この愛する豊前市の海、山、ふるさとを大事にする子どもが育ち、少子高齢化の中でも生き生きとしたまちづくりができるのではなかろうかな、というふうには考えております。

喋り出すと長いので、ここで止めますけれども、そういう思いです。以上です。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

ありがとうございます。教育長と色々な話をする中で、教育長の思いを教育長室で聞かせていただきました。今回、一般質問するに当たって、質問するのに言って良いことと悪いことがあるということ、1項目目は消させていただきました。

しかしですね、教育長もいつまでも教育長でおられるわけではなかろうかと思えます。そこでやっぱり行政は継続であります。継続するに当たって、今までずっと脈々と先輩た

ちから受け継いだものを、いま教育長が受け継いでもらって、また次の新しい世代にそれをバトンタッチせなならん。そこでバトンタッチするに当たって、やっぱりより良く、より改善して、より使いやすく、より良いものを次の世代にバトンタッチしなければならないと私は思っております。

教育長の業績は重々高く評価させていただきますが、教育長の仕事は、いま培ったものを次世代にやっぱりそれを実となり花となり、次世代につなげていくのが、やっぱり仕事だと思います。それについて、どういうことを、どういうものを次世代に申し送っていきたいかということ、所見があれば答弁ください。

**○議長 磯永優二君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

大変難しい質問をいただきまして、特に次世代に伝えていくというようなことで教育行政の責任者として何を考えているかというような御質問だろうとは思いますが、私が子どもたちに伝えたいのは、先ほど言ったとおりです。他はもうありません。

教職員に対して、これからの学校教育をつかさどる教師、教師としての指導力を高めてもらいたい。やはり私たちが現役で古川議員たちを指導していた時代と、今の学校教育は随分違うと思います。非常に保護者の期待も大きい。学校だけで対応できる問題ではない。しかし学校は、授業が勝負だろうと思います。子どもたちに学力をつけるということが一番だろうと思います。そのためには、授業改善をしながら、子どもたちから、保護者から信頼される教師になってもらいたい。

そして学校長として望みたいのは、開かれた学校づくり、地域の方々と手を取りながら学校経営をしていく、そういう校長になっていただきたいな、というふうにはずっと思っております。

お答えになるかどうか分かりませんが、そういう感じです。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

ありがとうございます。教育長の熱い思いは、ひしひしと直に私の心に響いたような感じがいたします。が、それを言葉じゃなく、実践として次の世代に申し送っていただきたいと思っております。

いま学校教育の中で、いま教育長が申されましたが、学校教育ともう一つ大切なのが社会教育ですね。学校教育は6・3・3の12年、豊前市は大学がないから、6・3・3くらいかと思います。また残りの3年は、これは県立高校の問題でありますので、豊前市の教育委員会とは、ちょっとかけ離れているかと思っております。

それより、その長い年月、社会教育もまた大切かと思えます。午前中の議論でも市民会館をどうするのかとか、社会教育、これからどうするのかとかいうふうな議論もありましたが、体育館施設等々も含めまして、この社会教育について、教育長の私見があれば、今度は、お年寄りになっても社会教育は受けるべきでありますから、これについて所見がありましたらお答えください。

**○議長 磯永優二君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

社会教育と一口に言っても範囲が広いから、中々難しいところですけども、市長が掲げる生涯現役社会づくり、そのためには、やはり生涯を通して学習できる環境づくり。年を召されても地域の行事に参加できるような体制づくり。あるいは先ほどからの議論の中からもいろいろと出ましたけども、そういった技能をお持ちの皆さんが、我々を含めた皆さんとともに伝授してもらい、継承してもらい、そういうような一つの流れができたらいいなというふうには考えます。

ちょっと質問が難しいから、うまいお答えはできませんけれども、以上です。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

これは、この質問について最後の質問であります。もう一度ですね、やっぱりこの豊前市、脈々と先輩たちから受け継いできたものを我々がそれを肥やしにさせていただいて生活をさせていただき、それをまた次世代の人に、今まで受けた以上のものを残していかなければならない。

そういうことで、教育長、これだけは次世代に残して伝えていきたい、これだけは言っておきたい等々のことがありましたら、お答えをいただきたいと思えます。

**○議長 磯永優二君**

教育長、答弁。

**○教育長 戸田章君**

各小・中学校には、歴史がございます。設立当時、あるいは校歌の中に、そういう歴史あるそれぞれの学校の文化を、いま人事も広域化しておりますので、そういう先生方、あるいは校長たちが理解をして地域の子どもを育ててもらいたい、というふうに願っております。以上です。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

ありがとうございます。これからももっともっと教育行政が素晴らしいものになることを心から期待しまして、この質問は以上で終わらせていただきます。ありがとうございます。

次に、第2点であります。豊前市の会計についてであります。豊前市は御承知のとおり単年度会計を採用しているかと思いますが、私はここで一個質問があります。単年度会計と複式会計、これの良いところ・悪いところ、メリット・デメリットがあったら、ちょっとお聞きしたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

それでは現行の単式については、資産の一部である現金が増減する取引のみを記録する方法というふうに言われています。現金の変動を記録し、その増減を把握するものであって、広く地方自治体で採用されてきたものであります。しかし資産の一部である現金の変動のみの測定になっているのではないかとされているのが現状でございます。

複式につきましては、発生の原因と結果を記録、整理するという方法だと認識しておりまして、資産の状況の把握が可能になるのではないかとこのように言われています。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

共に良いところ、悪いところがあるかと思いますが。前の議員さんで素晴らしい議員さんがおられて、この豊前市会計にISOの9001や14001を適用しないか、これについてどう考えているか、とかいうことを言われました。それきりその話がとん挫しておりますが、この話を御承知でしょうか、それともこういうことを一遍議論されたことがありますでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

ちょっと私がここに来る前ですね、約10数年前だったと思いますが、議会のほうで一般質問等があったというふうには記憶しております。

(古川議員「それは議論したの」の声あり)

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

議論したかどうか、ちょっと私は記憶しておりません。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

副市長、ちょっと覚えていないですか。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

自分が副市長になってから、そういった話は一度も出ておりません。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

これは一時流行ったと言ったら、ちょっとおかしいんですが、国際基準で、この14001や9001を取れば、企業として他の企業さんから、ちょっと一目置かれるというか、こういう会計をしたら良い会社だというような認識で、取引もスムーズにいくとかいうことがよくよく言われておりました。

それについて、何か議論をされたとか、議論をするとかいうような考えというか、思いはありますでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

議論というか、例えばISO14001につきましては、環境の遵守義務等を満たすことということで、項目が調べたら挙がっていました。

その中で、例えば環境リスクの低減、回避という項目があって、市役所で置き換えますと、例えば2階のフロアは、昼休みにお客さんがいないときに消灯しております。そういうこともISO14001の該当項目ではないかなというふうには思っております。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

確かにそうかと思いますが、でも今はこの話は中々聞こえてこないようになりました。これは何でかと言うと、お金が掛かるんですね、するに当たっても、した後にも。やっぱりすごくお金が掛かって、これをクリアするに対して、中々企業として企業努力できないということで中々広がらなかった。一時はちょっと広がったんですが、すぐに収束してしまって、今はあまり広がってないように思われます。

これを当てはめるとか、当てはめないとかいうことが、きょうの議論じゃないで、本当



のことを言いますと、大谷課長のところの素晴らしい職員が、我々振興組合に、昨年度、補助金を、こんなのがありますよ、ということをご提案していただいて、我々も知らなかったんですが、県と市が補助金を出していただいて、桜まつりをするようになりました。

いろいろ議論を重ねるうちに、ありがたいことにその補助金が下りるようになったんですね。ああ、良かったなと思って、ああ、これでこのお金を、皆さんの浄財を使わせていただいて、素晴らしい平公園で桜祭りをしよう、イベントをしようというふうに考えていました。

しかし、ことし、皆さん御承知のとおり、記憶に新しいかと思いますが、3月にすごく気温が低かった。それで桜が咲かなかったんですね。どうしようかと我々の仲間で喋ったときに、4月2日にイベントをしようという話をしたわけです。その話を市に持ち出したときに、商工の職員が、古川さん、それはちょっと困ると。なしね、ちゅうたら、3月31日までに、年度末までに消化してもらわんと困ると。まずそれを言われたから、我々の仲間内で議論をしたんです。そうしたときに、もうそんなちょっと使いにくい補助金なら、そんなに大きいお金でもなかったから、もうことしはパスしようや、という話で、そこで一応まとまりました。

そこをまた商工の職員に、そう決まったんよ、という話をしたら、古川さん、また困ると。豊前市だけの予算ならいいんですが、県の予算が入っていると。県に起案して県から許可が下り取るのに、ここでパスをすると、次に豊前市が上げたことに対して、凄いな県の職員あたりが違和感を覚えて、また通さんごとなると、そう言われました。ああ、そんなか。

それで結果的には3月20日にイベントをさせてもらいました。平公園に桜は一輪も咲いていなかった。しかし、そういうイベントをその時期にせざるを得なかった。今の時期なら私は言わないんですよ。5月とか6月なら別に年度をまたいでない。あのときにね、課長、年度をまたいだからそういうこと。だから私はきょうね、提案したいのが、複式にすれば、そういうことがないんじゃないかなろうかというような気がいたします。それについて、財務課長、お考えはあるでしょうか。

#### ○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

#### ○財務課長 諫山喜幸君

議員が言われているのは、県事業で、行きたくなる商店街づくり事業補助金、だと認識しております。この要綱の中で、報告書の提出期限ということで、翌会計年度の4月10日、もしくは事業が完了した場合から15日を経過した、いずれか早い日ということにうたわれておりましたので、担当課の職員が3月末ではないと、という説明をしたというふうに確認をしました。

議員言われるように、複式にしてはどうかということなのですが、たぶん市のほうから申しますと、支出の所に出てきますので、補助金の所に出てきますので、単年度でも複式でも変わらないのではないかなとは思っています。

ただ、手法として繰越明許という手続きが単式でもございますので、そういう手続きを踏めば良かったのではないかという気もしております。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

なんですか、そんなのは教えてくださいよ。そんなのをしたら良かったんじゃないかとかいうのがあれば。

今回もいま言えませんが、議案に単式簿記だからこそ、繰上充用みたいなことをしとるやないですか、あんなのはウルトラCじゃないで、ウルトラDやFですよ。普通の企業じゃ、ちょっと考えられんことですよ。それが地方自治体には認められとるんです。繰上充用。次年度の前、前年度に持っていくというのは、ちょっと普通我々の一般の人間には考えられんことです。でもそれは法として地方自治体に認められとることです。

だからどうなんですか、要するによくよく一般常識で言われているのが複式簿記のほう扱いやすいというのは、よくよく言われていますが、そこ辺について、いま資産と結果が分かるから複式のほうがいいんじゃないかというのがありました。課長の私見では複式がいいのか単式がいいのかというのは、私見で、どう思いますか。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

すみません。私見はちょっと申し上げられないんですが、自治法で会計年度独立の原則がございまして、国としては、やはり単年度ということになっています。

ただ、それで補完をするために企業会計的な視点を持った複式簿記の補完書類ということで、補完的なものということで国も導入を考えているものでございます。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

これはもうね、職員がやっぱりかわいそうですよね。職員が決めるわけじゃない。やっぱりいろんな企業会計や一部事務組合やら、他の自治体やら県やら国の補助金をいただくために、いろんな所との兼ね合いがあると思います。ここで複式のほうがいいですとか単式のほうがいいですとか課長が言えないかと思いますが、まずね、副市長の見解を。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

地方公共団体の金銭の処理は、単式簿記というのが地方自治法で決まっておりますし、複式簿記にしたと言えども、会計年度は4月1日か3月31日になっておりますので、何ら大きな影響はないと思います。

ただ、業務のいろんな内容で検証する部分は若干あるかもしれませんが、業務そのものは複式にしたからと言って素晴らしいメリットがあるというふうには、私は認識しておりません。以上でございます。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

同じ質問を、市長、お願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

単式がいいのか複式がいいのかという見方もございますが、いま議員が言われた、目の前で、4月が来たらそんな事業もできんごとなるんじゃないか、という具体的な例を出されました。それを解決する方策がないから複式にかえたほうがいいんじゃないか、というきっかけだったと思いますが、それは何らかのかたちで処理できるということであれば、そこはそこで処理をする方法があるんじゃないか。

東京都あたりは複式を採用しているというところがございますが、複式にかえますと、我々だけではなくて、他の自治体と照らしたり、照合とか、県とのつながり、そういう連携からいきますと、少しエネルギーが掛かるのかなと。ですから労を多くして実の部分、実りが少ないという印象を私は持っております。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

ここ辺は認識がいろいろあるかと思いますが、検討課題の一つにあげていただければありがたいかと思っております。そういうことがあったんで、ここで議論をさせていただきました。

3番目に移らせていただきます。今回のこの6月議会で一番大きなテーマで、私が取り上げようと思ったことであります。

市長が4月に2期目当選されました。おめでとうございます。おめでとうございますというか、御苦労様でございますというか、やはり世の中がどんどんどんどん変わっている

関係上、問題がやはり山積するわけです。一つ一つクリアしても、また次の問題がどんどん出てくるわけですので。そこで市長には全力をもって業務に当たっていただきたい。また市民、2万数千人の生命と財産を預かる最高の司令官として、多岐にわたって頑張っていたいただきたいと思います。

それで6月5日の議会初日に、市長の施政方針演説を、ここで聞かせていただきました。このことについて、数点お聞きしたいと思いますので、よろしく願いいたします。市長に直接質問いたしますので、他の職員の方はよくよく聞いておいてください。こういうふうに豊前市になるんだなと思っていただければありがたいと思います。それで、市長、1番目から大体大きい問題で6点、この中にありました。

それで1点目は、本年度大きな取り組みで国際交流についてであります。これはこの6月議会に議案として提出していただいておりますので、ここで議論するのは総務委員会に失礼でありますので、ここは割愛させていただきます。

2番目でございます。2番目に安全・安心なまちづくりで、市長は、こう言われています。市民への防災情報や行政情報を迅速に周知するため、防災行政無線を十分に活用すると共に、さらに強化を図ってまいります。

素晴らしいことではありますが、まずですね、総務課長、防災行政無線は悪評じゃないですか。この悪評なのを改善すると、去年のこの議会で、私は答弁していただきました。改善の策が見られないのと、この前、3月には各戸に配布するというお約束だったんじゃないんですかね。それが6月ですけど、うちの家にはまだ防災の各戸のものが届いていませんけど、その辺はどうなっているんですか。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

防災無線の戸別受信機の関係でお答えします。前回の3月議会で検討中だった、今後の戸別受信機の方向性について、お答えしたところでございます。現在、いろいろ手法がある中で、マルチメディア放送を活用した防災ラジオの導入について、さらに検討を加えている状況でございます。

当時については29年度以降の、国の、それに対する措置等について未定でございましたが、現在、減災対策債という起債がございますが、100%充当率で7割交付税措置、これが引き続きマルチメディア放送の導入についても対象になるということになっておりますので、現在、それを使った中で、導入方法について、さらに検討を加えている状況でございます。以上です。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

## ○10番 古川哲也君

ちゃんと言ったことはしましょうよ。しているのも分かるけど、やっぱり時間が掛かるかと思います。災害が起こったら1分1秒、これは大切なことですよ。やっぱり備えあれば憂いなしで、備えを先にしておかないと駄目だと思いますので、そこ辺は対処を、やっぱり市長が先頭に立って、職員に投げ掛けていただきたい。

では、次に健康福祉の充実ということで、口腔ケアを挙げられております。口腔ケア、いろんな議論があって、これは素晴らしいことであるんですが、これについて、まだ市民に周知はされていないような気がいたします。

そこで市長、この口腔ケアをはじめとする健康づくりは長い年月をかけて、その取り組みの成果が見られるようになります、ということで、地道に広げてまいります、ということでありました。どういったような感じで、また地道に、口腔ケアを含めて、他のことも含めて、健康増進のために地道に広げてまいりますということは、どういうふうな論点で広げてまいるのでしょうか。

## ○議長 磯永優二君

市長、答弁。

## ○市長 後藤元秀君

私の所信表明についての御質問をしていただき、ありがとうございます。

この口腔ケア事業は、生涯現役社会づくりを実現させるために、生涯現役であり続けるための基礎になります健康づくり、この健康づくりをどのように取組んでいくのか、まず分かりやすく、またそして大きなお金を投じることなくスタートできることは何だろうかということから、私の1期目の就任早々、皆さんに提案させていただき、事業化させていただいたところであります。

豊前市が主体となり、九州歯科大学と地元の歯科医師会の賛同を得て、三者一体となって事業を進めていこうという、官そして学、民と、皆さんの力を寄せ合って、市民のためという健康づくりの手法でございます。

1期目4年間頑張ってまいりまして、議会から再三指摘を受けました。効果がすぐ出るかという、出た部分もございます。まさに口腔ケア事業に参加していただいたお年寄りの中には、すごく表情が明るくなって、生き生きしてきた、前向きに、そして食欲も出て来た、そういう声もいただいております。

ただ、全部が全部というのは、中々難しいところでございますので、効果が100%出たのかと言われると、中々難しいところではございます。しかし、こういった健康づくり事業というのは、やはり年月をかけて地道に長く取組んでいかなければいけないんじゃないかというふうに思っております。

そういう意味では、この場でこういう話をさせていただいていいのかどうか分かりませ

んが、口腔ケア事業は、我々が携わってやってきました間に、日立メディカルという医療業界に、大学だとか医療の世界に情報伝達していただいておりますところが取上げていただきました。その結果、ある大手薬剤メーカー、製薬会社のほうから、ぜひこの事業に参画させてほしいと。

我々が今まで口腔ケア事業、歯を強く元気に8020運動でやってきたように、長寿の人に多い、自分の歯を残すという運動をやってこられた歯科医師会、その結果、歯を大切にしていこうというのはもちろんでございますが、歯茎の歯周病、特に歯周病につきましては、万病の元とも言われております。よく噛んで、しっかり味わって自分の体を養う栄養を摂ることができる、これも長寿の秘訣でございます。

先ほど言いましたように、いろんな分野に口腔ケアは効果があるということがいろいろ指摘されてきました。その中で早期の認知症を軽度に、また解消していくというような動きも研究の中で出てきたようでございますが、その製薬会社は、この認知症予防、認知症対策としての口腔ケアに目を付けていただきまして、参画をしたいというところまで評価をいただいているようでございます。

このように、口腔ケア事業というのが、中々我々が一生懸命やっておる割には、御指摘いただいておりますように、中々市民全体に共有されているという実感は、私自身もございません。ただ、教育長が先ほど答弁がありました、学校現場ではアイウベ体操から入っていただいております。また折に触れて口腔ケアの大切さを訴えてきておりまして、理解は少しずつですが広がっておりますようでございます。

御指摘いただいたように、市の中に、市民の中に、皆が、口腔ケアを知っているよ、いや、実践しているよ、というパーセントが増えるように、これからもしっかり取り組んで、地道に頑張っていかなければと思います。

#### ○議長 磯永優二君

古川議員。

#### ○10番 古川哲也君

ありがとうございました。後ですね、産業の振興や観光については、あまり大きな新しいものがないような感じがいたしますが、次に教育・文化について。

やっぱり市長ね、私もこの前というか去年ですね、初めて知りました。やっぱり人材というのは、豊前市にはやっぱり多いんですね。私はたまたまですね、教育長、御存知でしょうけど、八屋小学校に素晴らしい女性の教諭がおって、かるたですか、百人一首で永世クイーンになった。永世クイーンになったから、次はその方は出られないというんですね。それで、ことし優勝した人が、その人の教え子ちゅうんですよ。やっぱりね、松下幸之助がこんな話を、お金を残すのは下の下、名を残すのが中の中、人を残して上の上というのがPHPのすすめに書いていました。やっぱりそういうふうに残すような教育が必要

かと思えます。やはり人材がすごくおるんですね。

私も、もう目の前に、八屋小学校ちゅうたら、私の家の目の前ですよ。そこにそんな素晴らしい方がおられて、何年か前から、議長の発案で、我々と教員がお酒をちょっと酌み交わして意見交流できる場を設けていただきました。それで私の目の前におられて、そういう話をされました。

もっともっとうこういうものは我々も共有財産として皆に広めて、そういう力がある方を見出して、それを広める場を提供できたらなと思っていますが、それについて、市長、ちょっと考えを。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

おっしゃるように、永世クイーン、かるたの世界では本当に素晴らしい方が小学校におられます。私も教育長から教育委員会でその話を聞きましたときに、ああ、この人を表に立てて、豊前市の教育・文化振興に力を貸していただければ、というお話をした記憶がございます。

ただ、残念ながらそのときは、確か担任を持って、現場で忙しくて、毎日、日々追われているということで、まさに先生になりたてのころだったと思います。それで中々時間がとれない、余裕がないということから、その場では断念したところでございます。

ただ、御本人にその意欲があれば、またそういう力を貸してもいいよ、という思いをいただければ、我々としてははっきり受け止め、かるたのまちというか、かるたを大切に教育の中に生かしていく。

まさに学校教育、社会教育、先ほど御指摘の社会教育、生涯学習、そういう楽しくてためになり、そして仲間づくりだとかライバルとして友だちができる、そんな地域ができればいいなど、そういうふうに考えておりますので、もし時間がいただければ、そういうお力を借りることができればと願っているところではございます。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

今はもう一個の例でありまして、この方をどうのこうのというようなことじゃないで、そういう方が豊前市の人材の資産と言ったらいい方が失礼ですけど、凄い人材が眠っております。そういう方を、やっぱり表に出して、いろんなことで教えを教示していただき、いろんな方と接するに当たって、それを我々受けるほうもスキルアップがどんどん出来ていくかと思えますので、そこ辺はよくよく考えておいていただきたいと思えます。

私は一緒におったときにですね、中津の方だそうで中津南校を出たと、そう言われたん

です。ようこそ豊前へ、と私は頭を下げたんですよ。そういう方がおられるから、そういう方もやっぱりいろんな面をお願いして、表に出ていただいて、いろんな小学校の方たちと触れ合ったりすると、小学生も、こんな身近にこんな素晴らしい人がおるんだということが分かっていただければ、皆さんのスキルも上がっていくと思いますので、よろしくお願いたします。

最後に、行財政改革の推進について、と市長が申されました。

行財政改革につきましては、財政基盤の立て直しのため、規律を緩めることなく、収支の均衡を図り、これまで以上のコスト意識を持ち、市民サービスの向上と未来の子どもたちに豊前の魅力を引き継ぐことを基本に、広域で行っている一部事務組合や特別会計などについても、無駄を省き、生きたお金として使えるように、引き続き努力してまいります、というふうに市長が申しておられました。

そこで、財務課長、我々は、ずっと前は市長選があるときには3月に、4・5・6で暫定予算を組んで、この6月議会に7月からの本予算を組んでおりましたね。

しかし、前の3月議会では、課長がおっしゃった、他の自治体はほとんどが骨格予算を組んでいる。だから我々豊前市も今年度から骨格予算を組むんだと、骨格予算を組んだ。

今回出る予算が本予算だから、市長がどうしようかと考える予算かと思いましたが、今回、補正で9千万円くらいですね、そんなくらいしか豊前に余力というか、自由に使えるお金がないんでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

決してそういうわけではございません。市長が申されましたように、市民生活等に影響がないように4月から始めさせていただく分については、議会にお願いして、させていただくということでございました。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

骨格予算というのは必要経費、要するに大体これくらいの予算、お金が1年間に要するだろうという予算を出されたんでしょ。そうしたら、要するに義務的経費の予算じゃなかったんですか、あの予算というのは。そこに投資的経費も中に入っていたんですか。

**○議長 磯永優二君**

財務課長、答弁。

**○財務課長 諫山喜幸君**

ハードですね、投資的な経費についても、例えば街路事業の継続的なもの等につきまし



ては継承させていただいております。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

分かりました。

それで、市長ね、やっぱり市長も2期目、私が思った感じを言わせていただきますと、あんまりパンツとしたカラーが、もうちょっと出してもいいんじゃないか、というふうな気がいたしました。市長のカラーというか、こんなことをしたいとか、あんなことをしたいとかいうことがあまり見えないというか、私には見えなかったんですね、それについて、所見をお願いします。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

おっしゃる部分は、よく理解できております。大きく、あれをやるぞ、これをやるぞということも一つの方法ではございますが、1期目をしっかり踏まえて、2期目でどうやるのか。

私が今まさにこの項で質問を受けております、行財政改革だとか、つまり限られた予算でございますから、しっかりとその中身を精査し、無駄のないように財源を生み出していく。収入、歳入のほうでそういうところをしっかりと見直していこうと、もう一度その辺のところもしっかりと取り組んでいこうということもございました。

確かに、例えばこういう印象を私もずっと抱いておりました。人口減少の中で、どうしたら人口が増えるか。人口を増やすためには、働く場所をつくらなきゃいかん、だから工業団地に大きくお金を投じて、工業立地を推進する、企業誘致をする、そうすれば働く場所ができる。働く場所ができれば当然人口が減らずに、住んでくれる人も増えて豊前も元気になるだろう、というふうに私自身、思い込んでおりました。

しかし、いま工業団地を造り、企業立地を進め、企業は確かにたくさん拡張を含めて雇用を生んでいただいております。有効求人倍率が1を超える状況になっております。ところが、この取組んできた中で、あれっ、と思ったのは、なぜ人口が減っていくんだろうかと。やはりここに住みたい、魅力ある地域にならなければならない。それにはどうしたらいいんだろうか。そういう視点で、もう一度、市政全体を考えてみました。

ですから、所信表明の中に花づくりのところがあったと思います。観光振興というのは交流人口を増やす、これだけ人を引き付ける力のある花を、これだけ大きな財産を持っている豊前市でございます。これをもっともっと大きくしていくことが、もしかしたら企業誘致ほど大事なところもあるんじゃないか。そういう視点で地域づくりを考えていく。

大きな予算を掛けて大きな仕事をすれば、地域が元気になるのだろうか、そうじゃないやり方もあるんじゃないだろうか。無駄を省き、そして細かいところに目配りができ、そして市民に受け入れられやすい、そういう地域づくり、人づくり。そういう人づくり、地域づくりをすることが人口を増やしていくことに、活力源の人口を増やしていくことになるんじゃないか。そんな視点を含めて、今回、所信表明をさせていただいたところであります。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

私はですね、もうちょっと市長の2期目の当初予算ですから、カラーを出して、こんなことをするんだ、というような予算組をしたほうがいいんじゃないかな、というような気持ちで質問をさせていただきました。

それで最後に、今年度は第5次総合計画の後期基本計画を策定する重要な年であります、私を先頭に全力で取り組んでまいりますので、という話で結んでおられます。

ここね、1点ね、課長ね、これはまた策定するに当たってはコンサルに頼むんですか。総合政策にお聞きします。

**○議長 磯永優二君**

総合政策課長、答弁。

**○総合政策課長 藤井郁君**

業務委託のほうはいたしますけれども、当然ですね、トップヒアリング、市長、副市長の御意見もいただくとともに、策定の過程で職員の意見も取り入れて、職員主体でつくり上げていきたいと考えてございます。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

大体ですね、コンサルに頼むと5百万円から1千万円のお金が掛かるわけですね。そしてたら、福岡の百何十万人の市の所のコンサルに頼んでね、2万5千の市と一緒にすることはできんですよ。

かつ、いま課長がおっしゃったとおり、職員から意見を聴いたり、市長、副市長の意見を聞いたり、例えばよくアンケートを取っていますよね、アンケートを市民にランダムに出して、こういうことになっているというのがよく出ております。

しかし、提言は大体どこも似たようなことを書いているんですよ。何でかという、特色がないんですよ。ここに住んでいない。ここに生活していない人が、やっぱり人のヒアリングだけで、中々基本計画を作るのは難しいかと思えます。

私はね、ここで一つの考えであります、職員一人をそこに専従させても、職員一人の給与くらいでできるんですよ。だから専従させて、その人たちが一生懸命頑張って他の人のヒアリングをしたり、本当に生の声を聞いたりして、基本計画を立てたほうが絵に描いた餅のようにはならんかと思えます。

それは理想と現実がありますから、やはり基本計画は理想を書きますよね。一番理想の根源になっているのが人口ですよ。5年後、なんぼになっているから、それに向かって全部構築していくんですね。その考えがやっぱり理想ですから、ちょっと前までは3万人という人口増をさせるんだと、それはもう理想であるし、そうしていく目標だからと言って、ちょっと高い目標値にするんですね。そうしたときに、それに向かって全部計画を練っていくから、現実とはちょっとかけ離れたようになる。

これは国のあれで作らなならんことですよ、基本計画は必ず作らなならんものですから、これはですね、私がどうのこうのじゃないで、市長ね、考えの一つを入れていただきたいのが、やっぱりね、ただ単に簡単にコンサルに頼んでするんであれば、やっぱり出来上がったものが、あんまりこれといったカラーが生まれんと思えます。市長、さっき私が言ったのはそこなんです。予算でも自分のカラーを出していただきたい。やっぱりね、そういうところが多々あろうかと思えます。

だからこの基本計画について、市長の考えを、最後、お聞かせください。

**○議長 磯永優二君**

市長、答弁。

**○市長 後藤元秀君**

後期基本計画につきましては、御指摘のとおりでございます。丸投げでやっているかという、そうではありません。やはり私たちは、私たちが持つ豊前市の方向性、これをしっかり訴えてまとめていただくように、ということでやっております。

先ほどの質問にも関わることになるかもしれませんが、やはりもう一つ私は豊前市の体質改善みたいなのところもやりたいなど。目立ちませんが、体質改善をして、この人口減少時代にどのように対応していくのか。そして先ほど、黒江議員のお話にもありましたように、協働のまちづくり、市民の多くの力を借りながら一緒に取り組んでいける、そんなまちづくりというのは大事なことだろうと思えます。

これからどんな地域をつくるのか。確かにビジョンと言いますか、夢はたくさんございます。ただ、裏付けとなる財源がなければ、打ち上げ花火に終わってしまう危険性があります。そういうところも、夢と一緒に描くのも大事なことでございますし、それはそれで頑張っていくんですが、実態として現実対策として、しっかりこれからの人口減少社会時代に取り組んでいける基本計画にしたい。

またそんな中で、市民が元気に立ち上がっていく、参画してくれる、そんな豊前市づく

りを目ざしていきたいと思っています。

**○議長 磯永優二君**

古川議員。

**○10番 古川哲也君**

最後にですね、市長、2期目です。やっぱり我々議員は住民代表であります。二元代表制であります。市長が市民のためのことで素晴らしいことをするのであれば、どんどんバックアップするかと思います。ただ逆に、これをしちゃいかんよ、と暴走を止めるのも議会の仕事だと思っております。

やっぱりそこ辺は我々も注意深く市長の行いを注視してまいりますし、また共に力を合わせて豊前市民の幸せのために頑張っていければいいかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

これで6月議会の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○議長 磯永優二君**

これをもって、古川哲也議員の一般質問を終わります。

これより、本日の一般質問に対する関連質問に入ります。

関連質問は、答弁を含め、一人10分以内であります。

それでは、関連質問はありませんか。

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

黒江議員の市民協働のまちづくりについての関連質問ということで、豊前市のシンボルとまで、先ほど市長もお答えされておりましたが、天地山公園の今の管理状況というものがどのようになっているのか、お答えいただきたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

天地山公園の管理でございますが、嘱託職員3名を配置いたしまして、管理を行っております。あと草刈り、剪定、そういったものにつきましてはアルバイト職員、そういった者で対応しているところでございます。

**○議長 磯永優二君**

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

嘱託とあとアルバイトと課長おっしゃられましたが、ということでやられているとのことですが、公園内の清掃等がしっかりされているのか、その辺は、課長、御覧になったことがありますか。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

はい。私も時々天地山公園のほうには出向いておりますけども、されていると思います。

また、管理人のほうが定期的に時間になったら内部を巡回して、そういったところ、それから器具等、壊れていないかとか、そういったところを点検している状況でございます。

**○議長 磯永優二君**

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

それでは、課長が見回りしたところ、清掃もしっかりされ、また、先ほど花の話も市長がされておられましたが、花づくりということも言われておりましたが、花壇等もしっかりと手入れをされていると、このようなことでよろしいでしょうか。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

花壇のほうにつきましても、アルバイトの方等が植え替えを定期的に行っていたいてるところでございます。

**○議長 磯永優二君**

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

私が先月ですね、これは私の趣味ですが、ちょっとカメラを持って、やはり花もしっかりきれいな花が咲いていることだろうということを期待し、そして天地山公園を訪れました。そして遊歩道ですね、ずっと全て木の葉っぱが落ちて散らかっている。休みの日だったので家族連れのお客さん、入込客は、多くの方が来られておりました。

花の写真も撮る気にもなれないという、そのような現状を私は目にしましたが、私の見たものと、課長、あなたはいつ御覧になって、厚かましくもそのような御答弁ができていいのか。何月何日にあなたが行かれたのか、全てお答えください。いい加減な答弁はせんでくださいよ。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

私も仕事の関係で現地に出向くこともありますけど、時間等、いついつ行ったというのは、ちょっと自分では記録はしておりませんが、園内は場所が広いですので、場所がある程度巡回しながら清掃等は行っているというふうに思っております。

**○議長 磯永優二君**

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

じゃ簡潔に言いますが、あなたいい加減なことをおっしゃるのはやめられてください。いいですか。入り口を入れて全ての遊歩道から全てにおいて清掃が不十分であるということと、それと花壇のあれは何ですか、あの花壇は。全く花を撮れる状態じゃない。

ちょうどその時期が私の近所もそうだけど、一つの例を挙げますけど、いま青豊高校の前の道は豊前市の管理になるんでしょうけども、これは個人的に青豊高校のテニスコートの前なんか、一度御覧になってください。私は市長にも一度お話ししましたが、地元のある女性が自分でボランティアでしっかり手入れをされて、花を管理されている。

やはりしっかりとした愛情を込めて育てるから立派な花がきれいな花になっているわけです。あの状況を見てね、とてもじゃないけど、それは都市公園百選に出た、そして豊前市のシンボルなどと、とても恥ずかしくて言えないというのが、それは私を感じたところなんです。

それを担当課長であるあなたがね、そのようなことをおっしゃること自体、あなたは本当に私の質問を馬鹿にしているのか、やる気がないのか。やる気がないんであれば市長に辞表を出すなり、しっかりされるべきでしょうね。いかがですか。

**○議長 磯永優二君**

都市住宅課長、答弁。

**○都市住宅課長 向野隆裕君**

不十分な点等があるという御指摘でございますので、また現地等に行きまして、十分その辺りを確認しながら改善に努めてまいりたいと思います。

**○議長 磯永優二君**

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

所属課長がしっかりそのところの把握もされずに、いい加減な答弁をされるというのは、我々議会人にとってどれだけ失礼であるかということを、どのように考えておりますか。ちょっとこれは副市長、あなたの見解を伺いますよ。いかがですか。

**○議長 磯永優二君**

副市長、答弁。

**○副市長 榎本義憲君**

天地山公園の管理につきまして、御指摘を今いただきました。しっかり内部で検討して、そのような事実を確認をし、いろんな方策等があれば、そういった花いっぱい運動等の団体を通して、管理体制を変えていきたいというふうに思います。

**○議長 磯永優二君**

爪丸議員。

**○12番 爪丸裕和君**

あまり時間がありませんけど、これは産業建設委員会で、しっかり話をしますので、当然、課長、あなたもその間には、当然現地に足を運ぶことと思いますが、もう一度申しませんが、議員に対して適当ないい加減な答弁をするということが、あなた、どういうことかということかということ、後ほど帰ってもう一度、市長はじめ副市長もおられるでしょうけど、所属長の中で、総務課長、あなたのほうからも一言いただきますよ。いかがですか。しっかりとした答弁をしてください。

そして今後どうするのかもお答えいただいて、終わります。総務課長。

**○議長 磯永優二君**

総務課長、答弁。

**○総務課長 池田直明君**

お答えします。議会への答弁については、真摯に受け止めて、誠実な答弁をするということになっております。今回については、職員全員反省して、もう一度心がけたいというふうに考えております。以上です。

**○12番 爪丸裕和君**

終わります。

**○議長 磯永優二君**

ほかにありませんか。

(「なし」の声あり)

それでは、一般質問に対する関連質問を終わります。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。よって、本日は、これにて散会いたします。

皆さん、お疲れでした。

散会 16時05分